

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

広島県

自治体名： 広島県教育委員会

担当課名： 豊かな心と身体育成課

電話番号： 082-513-5032

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	8,478.16 km ²
人口	1,520,291人
公立中学校数	229校
都道府県立 中学校数	3校
公立中学校生徒数	64,842人
都道府県立中学校 生徒数	836人
部活動数 (運動部活動のみ)	2,601部活
都道府県立中学校 部活動数	26部活
都道府県立中学校 における地域クラブ 活動数	0クラブ
都道府県の協議会・ 検討会議等の 設置状況	未設置
都道府県の推進計画・ ガイドライン等の 策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域展開における都道府県の現状・課題

- 全国的な傾向と同様に、本県においても、今後さらに少子化が加速していくことが予想され、学校部活動を従前と同様の体制で運営することは難しくなっている。
- そうした中、本県では、都市部と中山間地域が混在していること等から、県が一律の方針等を示して地域展開等を推進することが困難であるため、これまで、各市町の実態に応じるところから取組を進めることとしてきた。
- 令和5年度からスタートした改革推進期間においては、実証事業への参加等による取組をはじめ、学校部活動の地域連携並びに地域スポーツクラブ等と連携した地域展開の取組が進められており、令和6年度は、7市町、2団体が実証事業に参加し、16のクラブで実証が行われた。
- 令和6年度末の時点では、半数程度の市町が協議会等を設置し、学校部活動の今後の在り方についての検討を進めており、中には、自治体独自の方針を示している市町も複数市町みられる状況であった。
- 県としても、各市町が最適な形で地域展開等を進められるようにするための支援として、担当者会議、市町へのヒアリング（県市町共創ミーティング）、指導者研修会等の取組を継続しつつ、各市町の課題に沿ったサポートの在り方や新たな取組を検討することとした。

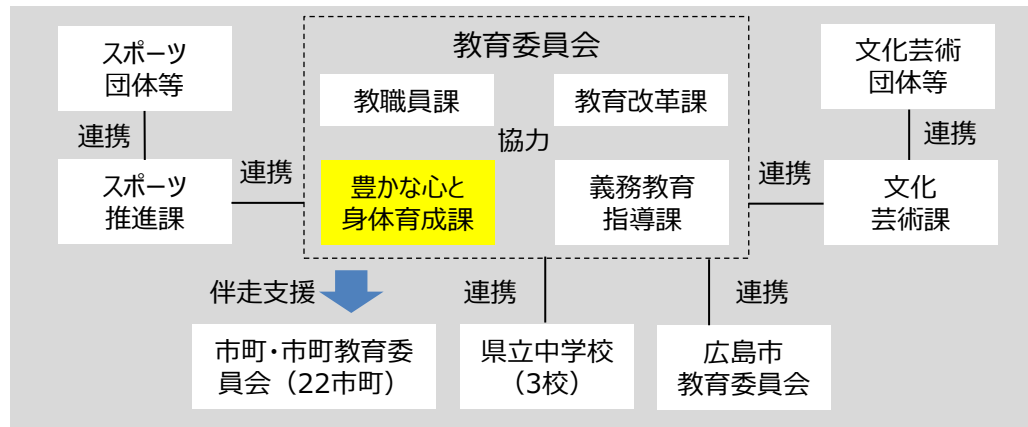
【広島県内の出生数の推移】（広島県人口動態調査より）

	H23 (R8の中学3年)	H26	H29	R2	R5(最新)
出生数(人)	25,469	23,775	22,150	19,606	16,682
H23を100とした場合(%)	100	93.3	86.9	76.9	65.4

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●都道府県における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（豊かな心と身体育成課）

- ・県全体での改革推進に向けた体制整備（市町担当者会議の開催）
- ・県全体としての改革方針の策定に向けた検討
- ・市町の取組状況の把握及び伴走支援（県市町共創ミーティングの実施）
- ・指導者確保に向けた仕組みづくり（指導者リスト運用、教職員の兼職兼業の取扱いの整理等）
- ・指導者研修の実施

◎首長部局（スポーツ推進課）

- ・県全体での改革推進に向けた体制整備（市町担当者会議の開催）
- ・市町の取組状況の把握及び伴走支援（県市町共創ミーティングの実施）
- ・指導者研修の実施

年間の事業スケジュール

- 6月 第1回担当者会議（オンライン）
- 8月 県市町共創ミーティング（22市町）
- 10月 県内地域クラブ活動視察①（ハンドボール）
指導者研修会①（東広島市）
指導者研修会②（世羅町）
- 12月 第2回担当者会議（オンライン）
県外視察①（島根県地域移行セミナー）
- 1月 県外視察②（香川県、高松市、松山市）
- 2月 県内地域クラブ活動視察②（ソフトテニス）
指導者リスト募集開始
第3回担当者会（オンライン）
- 3月 指導者リスト運用開始

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 1 市町担当者会議（オンライン）
【第1回】事例紹介（島根県雲南市、栃木県佐野市）、県の取組
【第2回】国の動向、県の取組、各市町の取組
【第3回】県の取組、視察報告（島根県セミナー、香川県、高松市、松山市）、講話（長与町教育長 金崎 良一 氏）
- 2 県市町共創ミーティング（22市町）
現状の確認、県からの提案、取組を進める上での課題、県からの支援に関する要望

取組の成果

- 1 市町担当者会議
オンラインで実施することで、多くの（40～50人）関係者に参加していただくことができた。また、他県等の先進事例の紹介については、参加者から今後も継続を希望する声が多くあがっている。
- 2 県市町共創ミーティング
「事前提供シート」で基本情報等を把握することで、協議の時間を十分に確保することができた。また、終了後は、広島市を含む全23市町に協議内容を提供することで、市町間の連携等を促進することができた。

今後の取組における課題

- 1 市町担当者会議
・3回ともオンラインで実施したため、協議が十分に深まらないといった声があった。
- 2 県市町共創ミーティング
・県からの提案内容が、市町の抱える課題に必ずしも一致しないケースがあった。
・方針が決定していない市町も多いため、取組に向けての具体的な議論に至らなかったことがあった。

課題への対応方針

- 1 市町担当者会議
・多くの関係者の参加と、協議内容の充実を両立させるため、参集とオンラインのハイブリッド形式を検討する。
・協議したいテーマを事前に把握し、各市町の実情やニーズに合った協議の場を設定する。
- 2 県市町共創ミーティング
・各市町の実情に合った提案をすることができるよう、人口規模等が近い自治体の先進事例を紹介することができるよう、情報収集をする。
・県としての改革方針を早期に示し、市町の方針決定を後押しする。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

1 指導者リストの運用

競技歴・活動歴がある方、指導経験がある方、教師や指導者を目指している方、スポーツや文化芸術活動を愛好する方等を広く募集し、学校や地域クラブ活動のニーズに応じて指導者を紹介する取組。

生徒のスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会等を確保・充実させるとともに、学校の働き方改革を推進し、学校教育の質の向上を図ることを目的として2月に運用を開始。



2 指導者研修会の実施

中学生のスポーツ活動の機会の確保に向けて、地域の指導者の指導力向上を図ることを目的に、学校や地域クラブ活動での指導希望者に対する研修を実施。

大学の先生を講師として、応急処置(外傷)の基礎、熱中症、分離症、慢性傷害、脳震とう、心臓関連の突然死等運動場面における安全面に関する講義を通じて、スポーツ指導に必要な知識を学ぶ機会とした。



1 指導者リストの運用

各市町へのリストの提供に向け、公的な団体、施設等を中心に広報を進めているところであり、今後、登録者数やマッチングの状況等から成果や課題を検証する。

2 指導者研修会の実施

取組の成果

- ・ 受講者に対して受講証明書を発行したこともあり、昨年度よりも受講者が増加した。(東広島会場7人、世羅会場11人)
- ・ 参加者からは、「初期の治療や救急車を呼ぶかどうかの判断基準等詳しく教えていただきとても参考になった」、「最新の情報や指導法を教えてくださいました。とても充実した内容だった」等、満足度の高さがうかがえる感想が寄せられた。

今後の取組における課題

- ・ 参加者を増やすため実施方法を工夫すること。
- ・ 国の新たなガイドラインで示された研修メニュー例を参考に、内容の充実を図ること。

課題への対応方針

- ・ オンライン実施と実施回数の増加を検討し、受講者の拡大を図る。
- ・ 「総論」や「学校・保護者との連携」に関する内容を追加するとともに、各市町が独自で研修を実施する際の資料提供を検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

取組事項

(1) 今後の運動部活動等の指導希望者に対する研修を実施し、公立中学校の運動部活動の地域展開等に係る指導者の確保につなげる。

(2) トップス広島に加盟している県内チームと連携し、中学校部活動の地域展開等に関わる指導者を対象に指導者研修を実施し、指導力の向上を図る。

※トップス広島：スポーツを通じた社会貢献に寄与することを目的とし、様々な活動に取り組むNPO法人。12のトップチームが加盟。

取組の成果

参加した指導者延べ41人を対象としたアンケートの結果、「指導を行う上で参考になりましたか。」という問いに対して、93%が「大変参考になった」、7%が「参考になった」と回答し、参加者の指導スキルが向上し、指導者の質の保障につなげることができた。

指導者研修の内容

競技名	内容	指導者	開催回数 開催日
バレーボール	・競技レベル別の指導 ・チーム戦術	広島サンダーズOB (TOPS広島バレーボール学校指導者)	2回 (1月17日) (2月21日)
ソフトテニス	・競技レベル別の指導 ・育成の考え方	NTT西日本ブルーグラ ンツ 監督、コーチ、選手	2回 (10月18日) (11月15日)
バスケット ボール	・個人スキルの指導 ・チーム戦術	広島ドラゴンフライズ スクールコーチ	2回 (10月19日) (10月26日)

指導者研修の参加実績

参加人数：延べ 41人

(ソフトテニス17名、バレーボール15名、バスケットボール9名)

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

受講者の声

○指導内容についての感想

- ・個々に合った声かけが参考になりました。
- ・生徒のレベルに合わせた工夫が参考になった。
- ・初心者に教えるポイントが分かりやすかった。
- ・生徒のやる気を出す方法が分かった。
- ・モチベーションの維持について知れたので、部活動で生かしていきたい。
- ・練習メニューが参考になった。
- ・楽しむ要素を練習に取り入れることが参考になった。

○次回は、どのような内容の研修を受けたいか

- ・練習の時間配分や年齢に合った指導方法について
- ・初心者への指導方法
- ・少人数でもできる練習メニュー
- ・ウォーミングアップや少ない時間で出来る練習
- ・子供達が楽しんでできる練習
- ・やる気のない子への声かけの仕方
- ・メンタル面

参加者属性

○指導場所

- ・学校の部活動 : 63%
- ・クラブチーム : 19%
- ・その他(体協等) : 18%

資格有無

- 資格なし : 75%
- スタートコーチ : 5%
- コーチ1 : 9%
- コーチ4 : 2%
- その他※ : 9%

※競技団体の資格

今後の取組における課題

○「競技の指導は、どこで行っていますか。または行う予定ですか。」という問いに対しては、63%が「学校の部活動」と回答しており、広報を工夫したものの、これまで部活指導に関わってこなかった指導者の確保に関しては、十分につなげることが出来なかった。

○指導者研修の参加者が想定より少なく、今後は、関係者や参加者、現場となる市町のニーズを踏まえ、あらためて研修内容を検討する必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

2月にスタートした指導者リストの周知に向けて、主に次のような関係団体等に協力をいただいた。

○広島県スポーツ協会

- ・スポーツ推進委員、総合型スポーツクラブ、スポーツ少年団等への周知に係る調整（計画中）
- ・県スポーツ協会主催の指導者研修会におけるチラシの配布
- ・各競技団体への情報提供

○各市町教育委員会及び各市町スポーツ主管課

- ・所管するスポーツ施設でのポスター等の掲示・配架等に係る調整

○公共のスポーツ施設

- ポスター等の掲示・配架

○県中学校体育連盟

- ・ホームページへの掲載

○大学等（教師資格が取得できる大学及び短期大学）

- ・ポスターの掲示等

○その他

- ・県教育委員会HPでの案内、SNSを活用した情報発信、教職員OB、OGへの案内

取組の成果

部活動の地域展開及び指導者リストの取組の趣旨を説明したところ、多くの関係団体等にご理解いただき、快く広報への協力をいただいた。

指導者リストの広報を通じて、地域展開等に対する認知を高め、機運醸成を図るきっかけを作ることができた。

今後の取組における課題

- ・協力いただいた関係団体から、継続的な協力を得ること。
- ・民間企業を中心に、まだ連携を図ることができていない団体・分野等が多くあること。

課題への対応方針

- ・関係団体・分野とのつながりをつくり、連携を深めることができるよう、特に、知事部局のスポーツ推進課や県スポーツ協会との連携を通して、関係団体等との効果的な連携に関する助言等をいただく。
- ・部活動の地域展開等に関する理解を促すため、ホームページの更新等を中心に積極的な広報活動を行う。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

- ・ 県内では、新たに方針を決定・公表する市町や、新たに協議会等を設置する市町、コーディネーター等を配置し関係団体との連携強化を図る市町が見られ、県全体として取組は拡大しているといえる。
- ・ 実証事業においては、昨年度の16クラブから大幅な増加が見られ、今年度は40クラブで実証が行われた。各市町や運営団体、実施主体において、成果や課題の整理も進められている。
- ・ 一方で、地域展開にも地域連携にも着手していない市町が複数見られることから、そうした市町が取組の第一歩を踏み出すための後押しも必要となる。
- ・ 県の新たな取組として、指導者リストの運用を開始した。この取組の周知にあたり、多くの関係団体と連携・協力を図ることができたため、このことは今後の指導者確保や補助的財源の確保等の取組においても、活かすことができるものと考えられる。

●成果の評価

- ・ 指導者リストの運用開始については、これまでのヒアリング等で各市町からいただいた意見を県としての取組に反映することができた成果といえる。しかし、今後、登録者数を増やし、効果的にスポーツ・文化芸術団体等に携わることができるよう、取組を進めつつ運用方法等を適宜、見直す必要がある。
- ・ 指導者研修会では、参加者の満足度は高く、研修内容については一定の成果が得られているものと認識しているが、参加者数については拡大を図っていく必要がある。そのためにも、地域の指導者が参加しやすい形での実施を検討するとともに、本研修会と各市町で今後構築される予定の認定制度との関連が図られるよう、各市町との連携を図りながら計画を立てる必要がある。
- ・ 市町担当者会議では、参加者から、他県等の事例発表の継続を希望する声が多く上がっている。今後も、できる限り多くの市町にとって有益な情報を提供することができるよう、県内外の様々な取組の把握に努める必要がある。

●今後に向けて

- ・ 各市町に対し、きめ細かなサポートを行うことができるよう、それぞれの市町が直面している課題や困り感の把握に努める。
- ・ 「県全体の改革方針を示すことが、市町に対し何よりも大きな支援になる」という意見をいただいていることから、現在作成中の「県の新たなガイドライン」の早期の策定を目指す。
- ・ さらに、県立中学校の取組を検討するにあたり、県立3中学校の所在地である三次市、東広島市、大崎上島町については、市町の取組をサポートしつつ、県立中学校の取組を市や町と一緒に検討していけるよう、連携を図る。

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年度

実証事業への参加（6市町）

令和6年度

実証事業への参加（7市町、2団体）

令和7年度

実証事業への参加（8市町、2団体）

市町担当者会議の開催

市町ヒアリングの実施

県市町共創ミーティングの実施

指導者研修会の開催（教育委員会）

指導者研修会の開催（教育委員会、スポーツ推進課）

指導者リスト運用

市町担当者会議では、各市町が取組の参考にすることができるよう、他県で先進的に取り組んでいる自治体から担当者を招いて、事例紹介を行った。

指導者研修会は、教育委員会が関係者等と連携し、現場の教頭先生による「中学生への指導」、大学の先生による「事故対応」、プロサッカーチーム関係者による「実践を交えた効果的な指導法の在り方」の研修を実施した。また、それぞれの受講者には、県教育委員会が作成したオンデマンド教材を提供し、「魅力ある学校部活動の在り方」に関する研修とした。

市町担当者会議では、できる限り多くの市町にとっての参考となるよう、県外の多様な取組を紹介することとした。

市町ヒアリングでは、聞き取った内容を県内すべての市町に提供し、各市町を取組の推進に活用できるようにするとともに、市町間の連携の促進につながるようにした。

指導者研修会では、「服務規律、生徒への指導、安全管理等」に関する内容を県教育委員会が、「競技ごとの指導力の向上等」に関する内容をスポーツ推進課が担当して実施した。

市町担当者会議では、多くの関係者が参加することができるよう、オンライン会議で実施した。

県市町共創ミーティングは、県からの支援の在り方を含めた具体的な取組を検討する機会とするため、前年度のヒアリングの名称を改めて実施した。

指導者リストは、競技歴・活動歴がある方、指導経験がある方、教師や指導者を目指している方、スポーツや文化芸術活動を愛好する方の登録を促し、指導者を必要とする学校（地域クラブ活動）とのマッチングを図ることを目的に運用を開始した。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

取組	事業概要	令和8年度	令和9年度	令和10年度
ガイドラインの策定	・部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する県としての改革方針を策定。	策定	ガイドラインに準じた取組・活動の推進	
指導者の確保	・指導者リストの作成・運用を行い、学校・地域クラブ等と地域指導者とのマッチングを支援。	運用開始	広報等による登録者拡大	
指導者の質の保障	・地域クラブ活動指導者や部活動指導員を対象とした研修会を開催。受講者には証明書を発行。	研修の実施		
		市町への研修資料の提供		
地域住民・企業の支援 による補助的財源確保	・「学びの変革」推進寄附金に、部活動改革に係るメニューを追加し、企業からの支援及びふるさと納税を活用した補助的財源の確保。	運用開始	部活動と地域クラブ活動に対する支援	
休日の地域クラブ活動費等の支援	・国の事業を活用し、休日の地域クラブ活動費等の支援、地方公共団体の体制整備等を実施。	申請のあった市町に対して経費の一部を補助		
部活動指導員の配置に係る支援	・国の事業を活用し、適切な活動時間や休養日の設定等、部活動の適正化を進めている市町に対し支援。	配置に係る経費の一部を補助		
市町へのきめ細かなサポート	・各市町への訪問による、市町の取組状況の把握及び伴走支援・指導助言等。 ・市町担当者会議の実施による、市町間の情報連携の促進、先進事例等に関する情報提供。	各市町への訪問（年1回）		
		担当者会（年3回）		
県立中学校の取組	・地域クラブ活動の体制整備について、地域クラブ活動の運営を通して検証を進め、その成果と課題をまとめ、段階的な部活動の地域展開を検討。	地域連携協議会設置	地域展開の導入・拡大を検討	

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

広島県三原市

自治体名：三原市

担当課名：三原市教育委員会 学校教育課

電話番号：0848-67-6155

1.自治体の基本情報

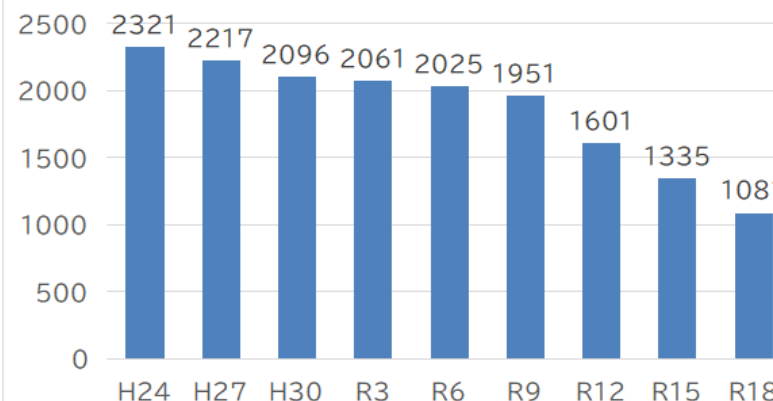
基本情報

面積	471.51 km ²
人口	85,575 人
公立中学校数	10校
公立中学校生徒数	2,016人
部活動数 (運動部活動のみ)	81部活
地域クラブ活動数	8クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	基本方針策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

- ・人口の減少に伴い、各中学校における生徒数も減少している。部活動においても、特に団体種目において合同チームを組まなければ大会に出場できない競技種目も増加している。
- ・例えば競技種目サッカーにおいては、市内10校のうち、4校でしか部活動が行われていない等、各校における部活動種目の再編も必要となっている。
- ・中山間地域においては、移動手段とを含めた対策も必要となっている。
- ・令和7年度は、競技種目を令和6年度の3拠点3競技3種目から変更し、4拠点5競技5種目として地域移行への取組を行った。令和5年度と競技種目を変更し指導者の確保が必要であったため、協会から指導者派遣を受けた。
- ・生徒アンケートの内容から、連盟からの指導者派遣においては、顧問以外から専門的な指導等が受けられる等、生徒の満足度が高くなる傾向がみられる。
- ・課題としては、地域スポーツ指導員の確保や質の高い指導力が求められる。指導員を確保し、安定して指導員を派遣することが必要である。

三原市公立中学校在籍生徒数及び
今後の生徒数推移予測

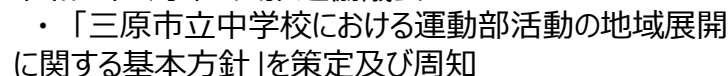


年間の事業スケジュール

1回推進協議会



令和7年6月第2回推進協議会



- ・ 実証事業参加団体への説明
- ・ 三原市体育協会への説明
- ・ 三原市中学校長会への説明

令和7年7月地域スポーツ活動開始

- ・（バレーボール、卓球、陸上競技・ サッカー、バスケットボール）

令和8年1月

- ・スポーツや文化活動についてのアンケート（教職員）
- ・地域スポーツ活動参加生徒アンケートの実施

令和8年3月

- ・ 第3回推進協議会（進捗状況の報告等）
- ・ 事業完了報告書・成果報告書等の作成

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		5クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	5クラブ（0部活動）	
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数	0クラブ	
全体の指導者数	11人	全体の運営スタッフ数	12人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
陸上クラブ	三原市教育委員会	陸上競技	・休日 15 回	8:30～11:30	1年：3人 2年：3人 3年：0人	7月～2月	3人	3人 (内、兼務0人)	1回200円	大会参加なし
卓球クラブ	三原市教育委員会	卓球	・休日 22 回	14:00～17:00	1年：3人 2年：4人 3年：3人	7月～2月	2人	2人 (内、兼務0人)	1回100円	大会参加なし
バスケットボールクラブ	三原市教育委員会	バスケットボール	・休日 25 回	19:00～21:00	1年：24人 2年：10人 3年：7人	7月～2月	2人	3人 (内、兼務0人)	1回100円	大会参加なし
バレーボールクラブ	三原市教育委員会	バレーボール	・休日 28回	14:00～17:00	1年：7人 2年：7人 3年：8人	7月～2月	2人	2人 (内、兼務1人)	1回100円	大会参加なし
サッカークラブ	三原市教育委員会	サッカー	・休日 0回	9:00～12:00	1年：0人 2年：0人 3年：0人	7月～2月	2人	2人 (内、兼務2人)	月額1,000円	大会参加なし

スポーツ庁

5

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・休日の地域展開モデルは、三原市教育委員会が運営主体となって事業を実施した。
- ・令和7年6月に「三原市立中学校における運動部活動の地域展開に関する基本方針」を策定し、周知した。
- ・三原市立中学校の運動部活動の地域展開に係る推進協議会を設置し、地域展開に係る協議を進めた。

取組の成果

- 生徒アンケート
- ・「指導者の指導内容に満足しているか」への回答内容において肯定的評価が100%

今後の取組における課題

- ・三原市体育協会加盟団体と連携した体制整備の構築。
- ・運営団体・実施主体の運営体制の整備や人材の確保等、持続可能な運営ができる組織体制の整備。

課題への対応方針

- ・サッカーへの参加者が年間をとおして0人であった。
- ・活動場所や活動時間帯の工夫が必要

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

- ・各競技団体において、スポーツ安全保険への加入を行う。
- ・参加生徒の体調管理及び熱中症対策の実施
- ・活動状況の提出

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

- ・各競技団体において、参加者との連絡を調整。活動日時の変更等については市HPで事務局が発信している。
- ・活動の実施報告については、Logoフォームを活用。

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

- ・活動中の事故等については、各種競技団体の指導者が保護者等への対応も含め行うことにしている。

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- ・指導者の質を保証するため、三原市体育協会加盟団体から指導者を推薦を経て、指導を行った。
- ・学校部活動との連携や、ガイドラインの遵守等について、活動実施前に指導者へ説明を実施。
- ・広島県教育委員会が主催する指導者研修会への参加の周知を行った。

課題への対応方針

- ・指導者研修の内容についての検討を行う。
- ・日本スポーツ協会の研修資料等の活用。
- ・公認指導者資格の取得者の研修の免除等

今後の取組における課題

- ・本事業に係る、市主催の指導者研修の開催が十分ではなかった。十分な研修の実施に向け、各種競技団体における研修や指導者資格等の共有が必要。
- ・競技によって指導者研修が実施されることや開催が重複することで指導者の負担が増える可能性がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

三原市体育協会、学校、教育委員会、三原市中学校体育連盟による協議会を実施し、地域クラブの運営について協議することで、連携を強化する。

取組の成果

体育協会加盟団体との連携から、指導者の確保につながり、令和6年度より2種目多い、5種目での活動が行えた。

今後の取組における課題

推進協議会を設置し、協議を進めているが、更なる効果的な運用方法の検討が必要。
体育協会加盟団体との協議やヒアリングから、地域展開への指導者の確保に向けた実態把握が今後必要。
中学校体育連盟において実施される競技種目への参加等について引き続き連携が必要。

課題への対応方針

休日の地域展開後も平日の部活動は学校で実施されるため、平日と休日のスムーズな連携に向けた協議を推進協議会を中心に各競技団体とも実施する必要があると考えている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

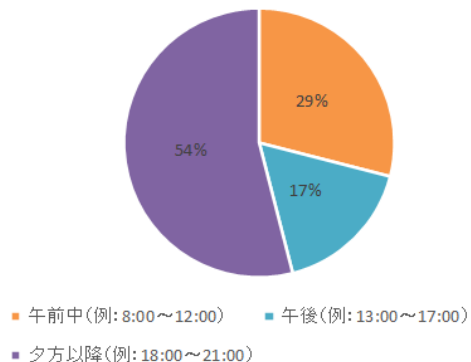
指導員を複数配置し、競技レベルに応じた指導体制を整備する。また、大学生等幅広い年齢層の指導員を配置することで、活動の活性化を図り、生徒のニーズに応じた活動ができる体制を確立する。

今後の取組における課題

- ・昨年度までの3競技に加え、新たにバスケットボール、サッカーにおいて事業を展開した。
- ・サッカーについては申込みがなかった。
- ・バスケットボールについては、活動時間帯を19時から21時に設定し実施を行った。参加者が41名と実施種目の中で最多となった。
- ・競技未経験者や午前中の部活動を終えて参加する生徒等個々のニーズに応じた取組となった。
- ・他の種目においても、活動時間帯のい設定が指導者のニーズ、参加者のニーズと違うことも考えられる。

取組の成果

理想的な活動の「開始時間」を選択してください



課題への対応方針

令和7年末現在、休日の部活動は学校においても実施されており、特に土曜日の午前中は、部活動を実施する学校が多くあり、同様の時間帯の地域スポーツ活動には参加しにくい状況もある。バスケットボールの事例を参考に夕方以降の実施を他の種目においても検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援、学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

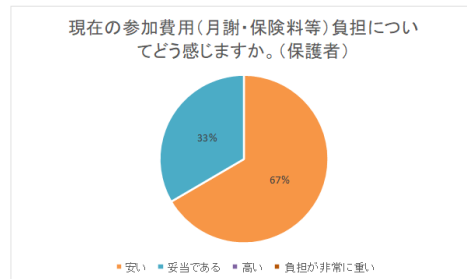
●取組項目名 カ：参加費用負担の支援、学校施設の活用等

取組事項

- ・ 休日の移行モデルについては、徐々に受益者負担を増やしていく仕組みで運用する。令和6年度の保険料に加え、令和7年度は受益者負担として会費を徴収するとともに、生徒・保護者の地域移行への不安を少しでも軽減することができるように、運営にあたって必要な費用を支援する。
- ・ 実証事業において、活動する団体は、学校体育施設の利用を無償化できる体制を整備することで、地域移行を推進する。

取組の成果

- ・ 保護者を対象に実施した受益者負担額に関するアンケートの結果



- ・ 実証事業への参加団体については、学校施設の利用を減免しているので、スムーズは活用につながった。

今後の取組における課題

- ・ 保護者への受益者負担額に関するアンケート結果においては、サッカーを除く4競技について回答を得ているが、回答のうち、67%安いと感じている一方で、33%は妥当と回答している。
- ・ これらの4競技は1回の参加につき、100円～200円の受益者負担を設定した。
- ・ 月額で会費等を設定した場合、参加をためらう生徒がいる可能性もある。
- ・ 他団体との調整や学校行事及び中体連の大会開催等で活動部が重複した際の対応。

課題への対応方針

- ・ 持続可能に活動するために、受益者負担の増額は検討しなければならないが、参加人数の減少すれば、活動自体が困難になる可能性もあるため、引き続き検討を進める。
- ・ 実証事業への協力団体を早期に決定する。
- ・ 学校施設の優先利用に関する制度の構築する。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

- ・推進協議会を設置し、「三原市立中学校における運動部活動の地域展開に関する基本方針」を策定及び公表した。
- ・実証事業における活動種目数の拡大については、令和6年度より2種目多い、5種目での実施ができた。
- ・体育協会からの推薦によって指導者を派遣してもらったことで、各種目において専門的な指導が生徒のニーズに応じて実施されたため、参加者のアンケートでは、指導内容に対して肯定的評価が100%となった。
- ・参加生徒のニーズは幅が広く、競技初心者から経験者となっており、現状の部活動と同様の傾向が見られている。
- ・生徒のニーズに対応していくため、拠点の拡大や指導者の確保、活動場所の提供、活動時間帯の工夫、受益者負担の持続可能な金額の設定等引き続き、推進協議会及び各体育協会加盟団体との連携を行うことが必要である。

●成果の評価

- ・三原市立中学校運動部活動の地域展開に係る推進協議会を開催し、今後の連絡調整や運営団体・実施主体の整備を進めていく基盤ができた。
- ・推進協議会において、基本方針について協議を行い、令和7年6月に公表することができた。
- ・実証事業の実施種目を増加させたことで、生徒の参加人数も増加した。

●今後に向けて

- ・令和9年度からの休日部活動の廃止に向けた、地域スポーツ活動の整備
- ・市内中学校にある運動部活動7種目での実証事業の実施
- ・推進協議会を基盤とした各体育協会加盟団体との地域展開に向けた協議の充実
- ・児童、生徒、保護者への周知
- ・教職員の兼職兼業制度についての検討

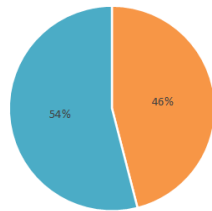
2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

指導者の指導内容に満足していますか。

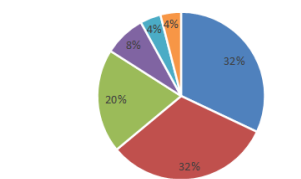
指導者の指導内容に満足していますか



■ とても満足している ■ 満足している ■ あまり満足していない ■ 満足していない

この活動に参加して、自身にポジティブな変化はありましたか。（複数回答可）

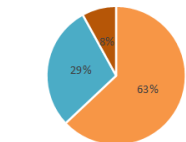
この活動に参加して、自分自身にポジティブな変化はありましたか
(複数回答)



■ 技術が向上した ■ 友人が増えた
■ 運動・活動習慣がついた ■ 自信がついた
■ 学校生活が楽しくなった ■ 特に変化はない

来年度もこの活動（地域部活動）を継続して利用したいですか。

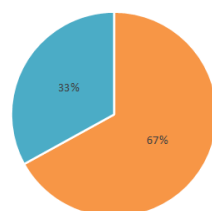
来年度もこの活動(地域部活動)を継続して利用したいです



■ 強く継続したい
■ 条件(場所・費用等)が合えば継続したい
■ 継続したくない
■ 分からない

参加頻度は適切でしたか。

参加頻度は適切でしたか



■ ちょうどよい ■ もっと増やしてほしい ■ 多すぎて負担である

●参加者/関係者の声

参加者/生徒

競技以外の挨拶や礼儀等も合わせて指導頂いた事

参加者/生徒

部活とは違うスポーツを楽しめて、とても貴重な場でした。成人の方、上級生のフィジカルの強さを体感し、技術向上を目指す気持ちにもなれました。この充実感から、学校生活も少しずつですが、前向きになっているように感じます。

参加者/保護者

子供達にとっては貴重な体験だったと思います。競技以外の大切な事等指導頂いたので、来年度以降も是非、継続頂きたいです。

参加者/保護者

とてもわかりやすく教えてくださっている。毎回楽しみにしているようです

2.実証内容と成果③

参考資料



【陸上短距離】



【陸上短距離】



【陸上短距離】



【陸上長距離】

2.実証内容と成果④

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

地域移行に向けた検討開始

受け皿団体や
指導者の選定、
拠点校の選定

令和5年

学校現場との
調整、競技種
目数の拡大

令和6年

生徒、保護者の
実態把握及び推
進協議会設置に
向けた協議

令和7年

推進協議会の設
置、基本方針の
策定及び周知

令和8年

地域クラブ活動
の拡大、種目数
を7種目へ

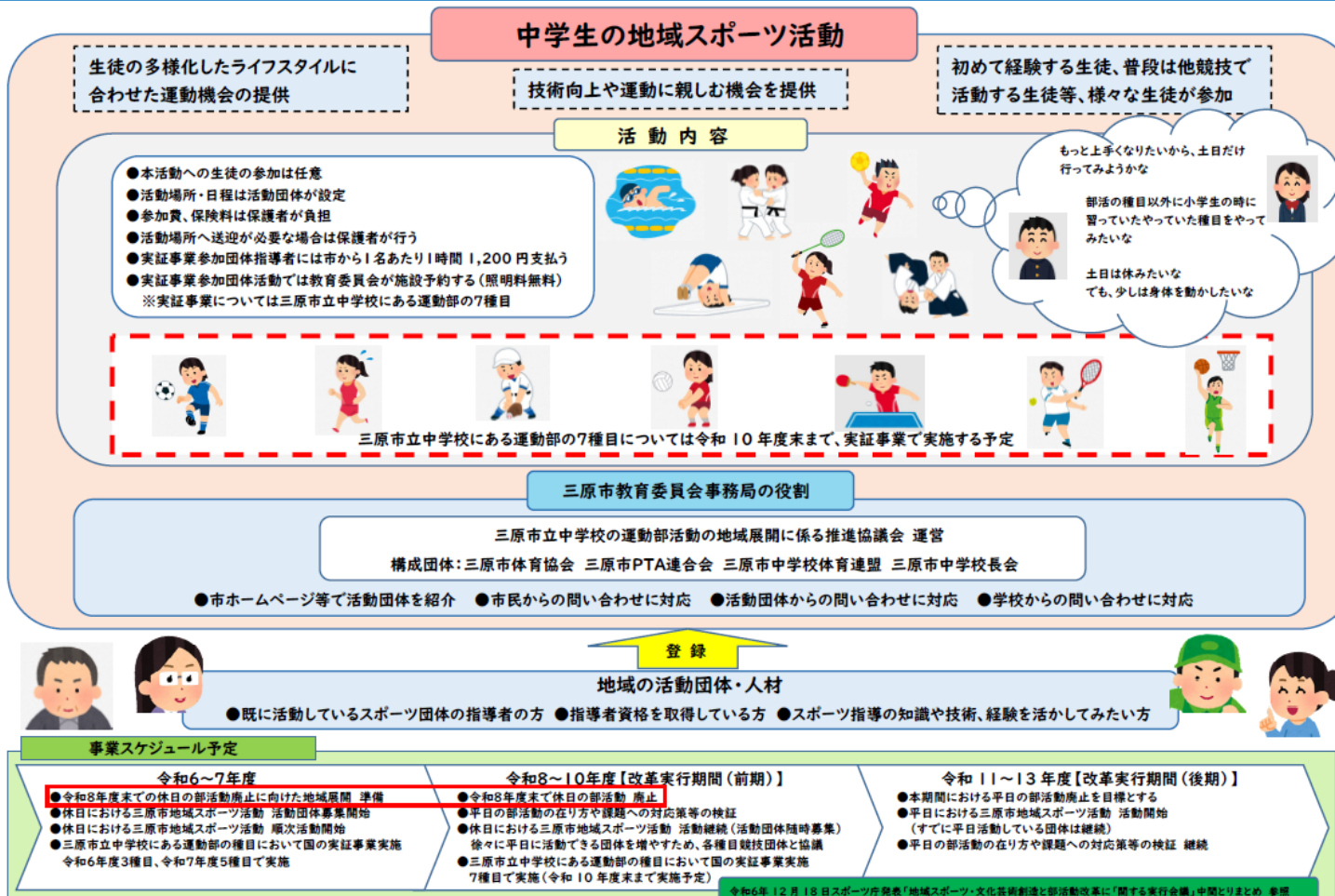
- 拠点校での実証研究
- ステークホルダー
三原市教育委員会
- 経過
指導者の確保、人材バンクの充実の必要性、運営組織の確立
拠点校及び実施種目の拡大
令和6年度は3種目で実施。競技種目を一部変更。
- 実施にあたっての課題
地域スポーツ指導員を派遣できるシステム作りの必要性。中学校単位では出場が難しい競技種目への対応。
受益者負担の金額について
教職員の兼職兼業の在り方
- 実施内容、工夫した点 等
競技種目を一部変更したことで、その種目の指導員のニーズや指導力等を把握することができた。

- 拠点校での実証研究
- ステークホルダー
三原市教育委員会
三原市体育協会
地域スポーツ活動団体
- 経過
指導者の確保、推進協議会の設置、基本方針の策定及び周知
拠点校及び実施種目の拡大
令和7年度は市内公立中学校で生徒が所属している運動部活動の7種目の内5種目で実施。
- 実施にあたっての課題
地域スポーツ指導員の選定方法
市体育協会との連携
受益者負担の金額を各種目で設定
教職員の兼職兼業の在り方
- 実施内容、工夫した点 等
種目数を増加させたことや活動時間帯を種目によって夕方に変更したことで、参加者の増加につながった。

- 拠点校での実証研究
- ステークホルダー
三原市教育委員会
三原市体育協会
地域スポーツ活動団体
- 経過
指導者の確保、推進協議会の運用
拠点校及び実施種目の拡大
令和8年度は市内公立中学校で生徒が所属している運動部活動の7種目での実施。
- 実施にあたっての課題
地域スポーツ指導員の選定
市体育協会との連携
受益者負担の金額
教職員の兼職兼業の在り方
- 実施内容、工夫した点 等
中学校部活動の募集停止とを含めた生徒・保護者への継続した説明の実施

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

三原市立中学校における運動部活動の地域展開について



令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

広島県府中市

自治体名：府中市教育委員会

担当課名：学校教育課

電話番号：0847-44-9026

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	195.75 km ²
人口	34,846 人
公立中学校数	4 校
公立中学校生徒数	788人
部活動数 (運動部活動のみ)	36 部活
地域クラブ活動数	2 クラブ
市区町村の協議 会・検討会議等 の設置状況	設置済
市区町村の推進計 画・ガイドライン等の 策定状況	策定に向けて 準備中

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

(現状・課題)

①児童生徒数の減少による活動の制限

市の人口減少とともに、府中市立学校の児童生徒数も減少傾向にあり、令和7年度の2,118人に対し、令和12年度では1,619人にまで減少する見込みである（生徒数：令和7年度の788人から令和12年度では668人まで減少見込み）。

生徒数の減少に伴い、各学校の部活動の数や活動が限定されつつあり、大会に参加するときは、合同チームで参加する部活動もある。

②中山間地域における指導者の確保や地理的な困難さ

現在は、部活動の指導者等の人材バンク登録者やスポーツ協会の連盟員、兼職兼業による教員等を指導者として派遣し、地域展開を実施している。これらの取組を通して、競技の専門性の向上及び担当教員の負担軽減を図っている。

しかしながら、実施している種目以外の指導者の確保が難しく、地域展開に係る取組が停滞している。また、学校間の距離があり、保護者に送迎等の負担がかかる（市内の中心部まで車で40分を要する学校がある）。

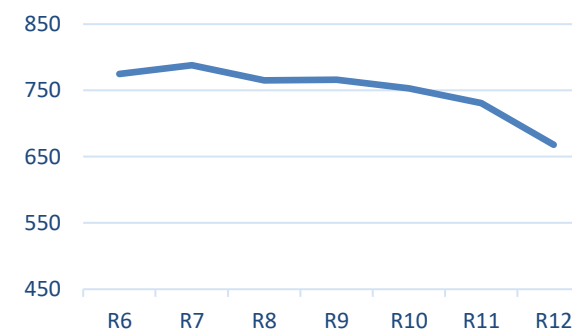
③財源の確保に向けた取組

地域部活動の運営に必要な費用（施設利用料、備品購入費、指導者謝礼など）が必要であるため、ふるさと納税、クラウドファンディング、企業や地域団体からのスポンサー支援などの手法を検討している。

④コーディネーターの役割の設定

ソフトテニス部の活動において、指導者の調整、顧問の教員との連携、実績簿の整理、活動場所の確保、参加生徒の出欠確認及び電話連絡、怪我や緊急時の対応など、コーディネーターの役割として位置付け、教育委員会担当者と連携を取りながら、取り組んでいる。

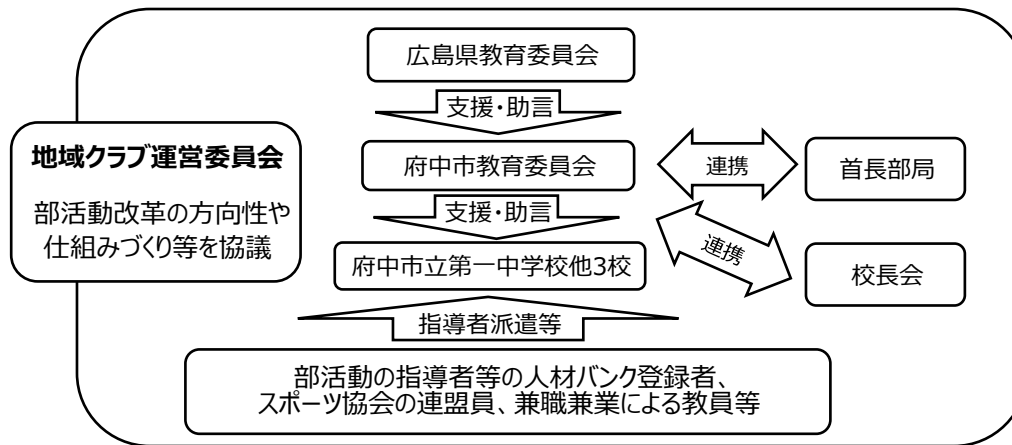
生徒数推移予測



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・部活動改革の実施主体（企画・運営、人材バンク管理、指導者派遣等）
- ・関係団体等との連絡調整、関係者への説明会の実施
- ・コーディネーター（各種目）との情報連携及び指導助言

◎首長部局

- ・教育委員会と連携
- ・社会体育施設の利用に係る規約の見直し等
- ・文化芸術・スポーツ団体、スポーツ協会、スポーツ推進員等との連携・ヒアリング

年間の事業スケジュール

令和7年4月	第一中サッカー部の活動開始
令和7年6月	ソフトテニス部の生徒、保護者、指導者への説明会の実施
令和7年7月	ソフトテニス部の活動開始
令和7年11月	第1回府中市地域クラブ運営委員会の開催
令和8年2月	第2回府中市地域クラブ運営委員会の開催

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	4校	実施した地域クラブ総数	2クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2クラブ（7部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	9人	全体の運営スタッフ数	2人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
府中市地域クラブ	地域団体・人材活用型	サッカー	月4回	9:00～12:00	第一中 1年：7人 2年：7人 3年：10人	R7.4月～ R8.2月	第一中グラウンド他	2人	2人 （内、兼務2人）	月会費： 1,000円 ※遠征費等により、変動有	中体連： 部活動 その他： 地域クラブ
府中市地域クラブ	地域団体・人材活用型	ソフトテニス	月2回	9:00～12:00	第一中、 府中明郷学園、 府中学園 1年：32人 2年：18人 3年：7人	R7.7月～ R8.2月	府中市中須グラウンド他	7人	2人 （内、兼務2人）	なし	中体連： 部活動 その他： 地域クラブ

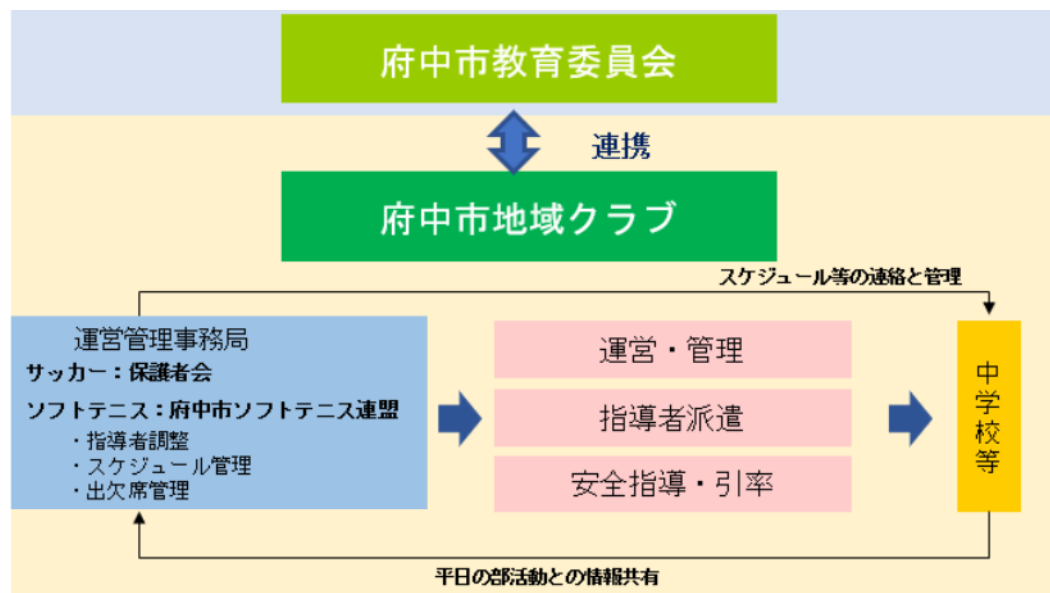
2.実証内容と成果

主な取組例

●府中市地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、ソフトテニス
運営団体名	府中市教育委員会
期間と日数	サッカー：4月1日～2月27日 月4回程度 ソフトテニス：7月1日～2月27日 月2回程度
指導者の主な属性	地域の方、兼職兼業の教員
活動場所	府中市立第一中学校グラウンド 府中市中須テニスコート 他
主な移動手段	自転車、徒歩、保護者の送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	サッカー：12,000円 ソフトテニス：0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●コーディネーター

役割：活動における責任者として、指導者の調整、活動場所の利用調整、スケジュール管理、学校や指導者との連絡調整、保険対応、保護者連携等を行う

●地域スポーツ指導者

役割：活動において、生徒への指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

・府中市地域クラブ運営委員会において、府中市の部活動の地域展開のあり方について協議し、関係団体や関係学校と連絡調整等を行うとともに、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。

取組の成果

・府中市地域クラブ運営委員会において、府中市スポーツ議員連盟（市議会議員）、府中商工会議所、府中市CS連絡協議会、中学校校長会長、中体連会長、PTA連合会、府中青年会議所、市長部局（スポーツ振興課等）、教育委員会等からなる構成員で協議することで、府中市の部活動の地域展開・地域連携のあり方について多面的・多角的な意見を交わすことができた。

今後の取組における課題

・各種目のコーディネート業務を担う人材の発掘、業務内容や人件費の要件や基準等を設定する必要があると考える。

課題への対応方針

・細かい要件や基準について、本市の実態に合った形態を構築できるよう府中市地域クラブ運営委員会にて協議していく。



【府中市地域クラブ運営委員会】

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- ・府中市独自で人材バンクを設置し、指導者の確保に努める。
- ・指導者に対しては、体罰及びセクシュアル・ハラスメント等の防止について研修を実施し、不適切な指導がないよう、取り組む。また、コーディネーターを通して、指導方針を伝え、教育委員会から指導助言を行う。

取組の成果

- ・部活動の指導者等にかかる人材バンクを設置し、案内チラシを作成及び配布するとともに、府中市HPや府中市公式SNS等を活用して周知拡大を図った。（令和7年度人材バンク登録者：7名）
- ・体罰やハラスメントに関する課題について、問題が顕在化する前の段階で研修や指導を行うことによって、未然防止に繋がった。

今後の取組における課題

- ・部活動の地域展開を進めるために、さらに広く周知し、指導者の確保を進めていく必要がある。

課題への対応方針

- ・教職員や市職員の兼職兼業、スポーツ団体や企業、大学等からの指導者派遣など、府中市全体で取組を推進していく。



【人材バンク チラシ】

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・スポーツ協会、文化芸術団体、府中青年会議所、地域企業などとの連携を強化し、指導者や支援者を確保することで、子どもたちが充実した活動環境の中で成長できる支援体制を多方面から構築する。
- ・中学校校長会長や中体連会長と密に連携し、部活動改革の具体的な取り組みや方向性を継続的に協議することで、現場の声を反映した実効性のある施策を展開する。

取組の成果

- ・スポーツ協会のソフトテニス連盟が中心となり、市内のソフトテニス部の部活動を月2回程度、地域クラブとして活動している。コーディネーターが参加者管理、指導者の調整、活動場所の利用調整、スケジュール管理、学校や指導者との連絡調整、保険対応、保護者連携等を丁寧に行っているため、円滑に活動することができた。

今後の取組における課題

- ・競技団体や総合型地域スポーツクラブ、近隣市町など多様な団体等と連携がとれておらず、団体が保有する人的資源やノウハウを活用できていない。
- ・生徒・指導者の増加により、連携ミスや過誤が発生しやすくなり、指導活動の円滑な遂行や環境の質の低下、さらには安全性への懸念に繋がる恐れがある。

課題への対応方針

- ・近隣の団体や総合型地域スポーツクラブ等と包括的な連携協定を結ぶなど繋がりを強化し、質の高いスポーツ指導、幅広いスキルレベルに対応できる環境を整える。
- ・組織全体として効率的な情報管理と共有の仕組みを整えるため、情報共有を円滑化するためのITツールやプラットフォームの活用を検討する。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

○府中市地域クラブ運営委員会の開催により、部活動改革の理念等を共有し、来年度以降に制定する「府中市認定地域クラブ活動認定要綱」について協議することができた。

（理念）

- ・市内全ての子供たちの「やってみたい」に応える環境づくり
- ・多様な地域で、多様な世代とともに、多様な文化芸術・スポーツ活動等への参加が可能な環境づくり
- ・地域・地元企業も巻き込んだ大人の「やってみたい」も実現するまちづくり

○中山間地域における指導者の確保や地理的な困難さに対し、1つの団体等に受け皿としてお願いするのではなく、部活動の指導者等の人材バンク登録者やスポーツ協会の連盟員、兼職兼業による教員等を指導者として派遣し、サッカーとソフトテニスについて地域展開を試験的に実施することができている。しかしながら、他の種目の指導者の確保が難しく、地域展開に係る取組が停滞している部分もある。

●成果の評価

- ・人材バンクを設置し、案内チラシを作成及び配布するとともに、府中市HPや府中市公式SNS等を活用して周知拡大を図ることで継続的な指導者確保に繋がっている。
- ・ソフトテニス部の地域クラブ活動において、指導者の調整、顧問の教員との連携、実績簿の整理、活動場所の確保、参加生徒の出欠確認及び電話連絡、怪我や緊急時の対応などをコーディネーターの役割として位置付け、教育委員会担当者と連携を取りながら、取り組むことができている。来年度以降も、円滑に取組が推進されるよう、必要に応じて役割を見直していく。
- ・指導者に対しては、体罰及びセクシュアル・ハラスメント等の防止について研修を実施したり、コーディネーターを通して、指導方針を伝えたりするなど、教育委員会から指導助言を行うことでトラブルの未然防止に繋がった。

●今後に向けて

- ・細かい認定要件や基準について、本市の実態に合った形態を構築できるよう府中市地域クラブ運営委員会にて協議していく。
- ・財源の確保に向けた取組に向けて、ふるさと納税や賛助会員制、企業等からの寄付など、様々な方法を検討の上、府中市にふさわしい形を整備していく。

2.実証内容と成果

参考資料



【地域クラブ活動（ソフトテニス）スタート時の様子】



【地域クラブ活動（ソフトテニス）練習の様子】



【府中市地域クラブ運営委員会 協議の様子】



【地域クラブ活動（サッカー）生徒による部活動の様子】

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和7年

府中市地域クラブ
運営委員会の設置

府中市地域クラブ
認定要綱の検討

令和8年

学校、関係団体
等との調整

府中市地域クラブ
認定要綱の制定

令和9年～

認定要綱の元、実証
事業を実施

児童生徒・保護者へ
説明

○学校、関係団体等との調整

●活動内容

人材の発掘・マッチング・配置
に関する取組。

●経過

令和5年度より、一般社団法人
府中青年会議所と連携して
いる。

●実施にあたって生じた課題

予算内での人材配置になるた
め、財源の確保が必要となる。

●実施内容、工夫した点 等
スポーツ協会、競技団体、大
学、企業等と連携し、本市独
自で設置した人材バンクを活
用して、指導者の確保を行う。

○地域クラブ活動の仕組みづくり

●活動内容

事務局を中心に認定要綱を作成
し、地域クラブの受入体制を整える。

●経過

令和7年度中に案を作成し、協議
を行っている。

●実施にあたって生じた課題

適切な参加費や指導者条件など、
府中市の基準をどこに設定するか
十分に協議が必要である。

●実施内容、工夫した点 等

多様な関係団体と連携し、府中
市の実態に合った認定要綱を定め、
関係者に周知していく。

○地域クラブ活動の開始

●活動内容

令和9年度より可能な種目から、
休日の部活動を地域クラブへ移行
する。

●経過

現在、サッカーとソフトテニスの種目
については実証的に地域クラブ活動に
取り組んでいる。

●実施にあたっての課題

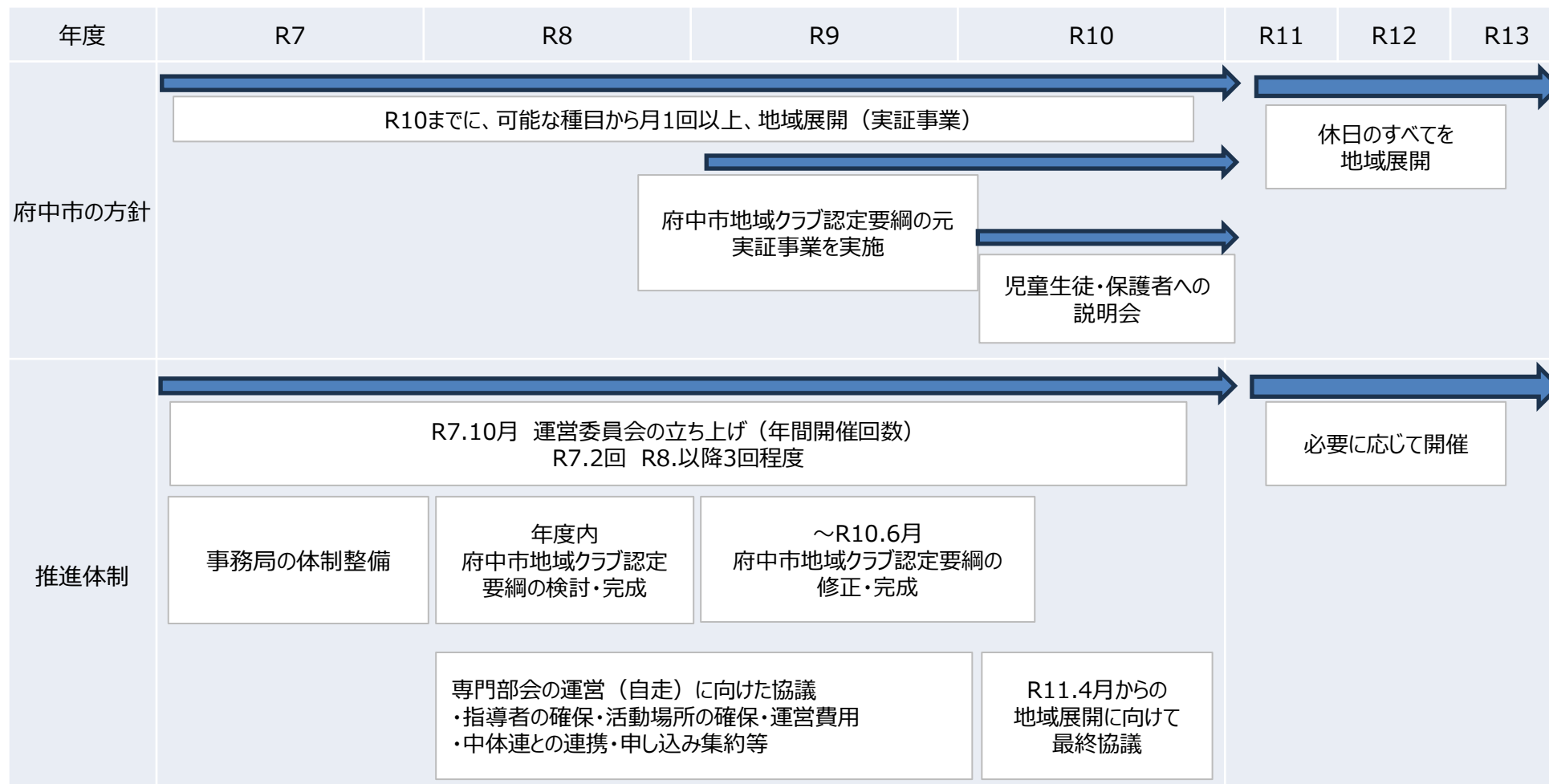
指導者の確保、財源の確保

●実施内容、工夫した点 等

各種目にコーディネーターを配置し、
円滑に地域クラブ活動の運営が
できるような組織を構築する。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

広島県三次市

自治体名： 広島県三次市

担当課名： 広島県三次市教育委員会教育部学校教育課

電話番号： 0824-62-6187

1.自治体の基本情報

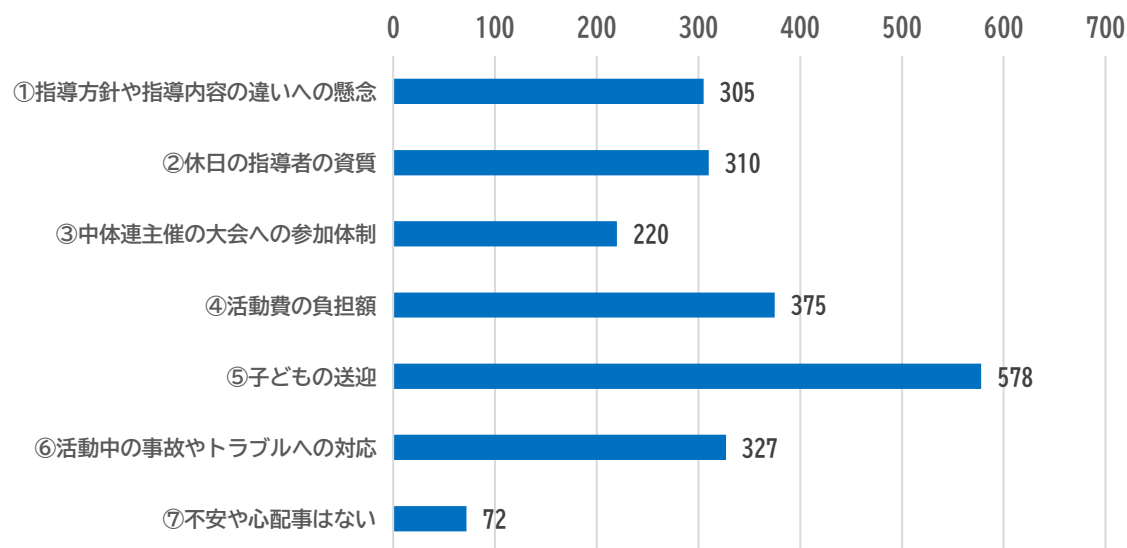
基本情報

面積	778.18km ²
人口	47,223人
公立中学校数	12校
公立中学校生徒数	1,058人
部活動数 (運動部活動のみ)	58部活
地域クラブ活動数	52クラブ
市区町村の協議 会・検討会議等 の設置状況	設置済
市区町村の推進計 画・ガイドライン等の 策定状況	基本方針を策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

三次市の中学校の生徒数は、平成25年度から令和7年度の12年間で、439人（29.3%）減少し、今後も生徒数が減少することが見込まれ、学校部活動の種目数や合同チームの増加が推測される。運動部の種目数は最も多い学校で10種目、最も少ない学校で3種目である。3種目の学校は、市内12校中6校となっている。また、合同チームの状況は、12校中10校が何かの種目で合同チームを編成している。

三次市の地域クラブは、一部の地域に集中しており、令和7年度保護者アンケートにおける不安や心配事で最も多かったのが、「子どもの送迎」であった（図1参照）。

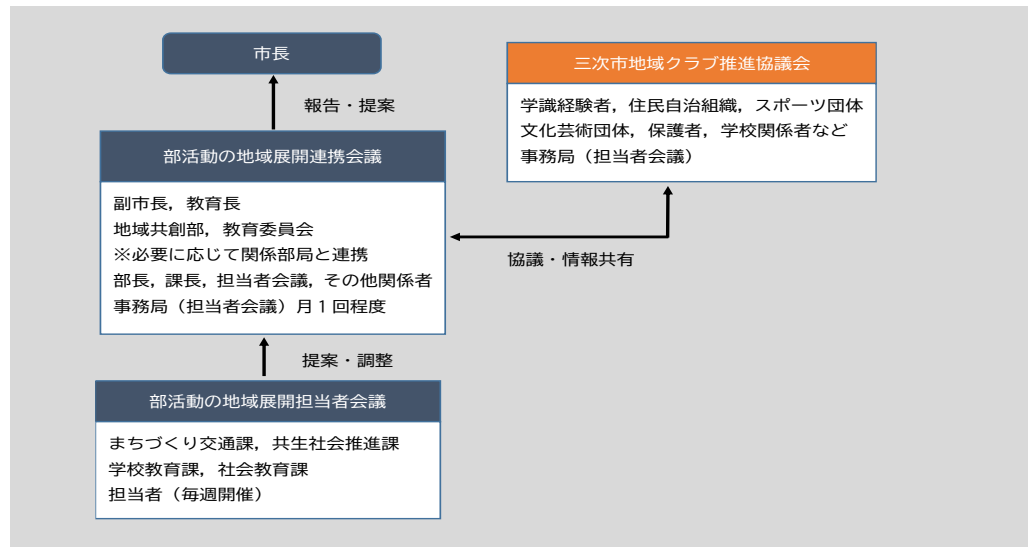


【図1】休日の地域でのスポーツや文化活動に対して、不安や心配事はどんなことですか。（人）

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（学校教育課、社会教育課）

・事務局として会議の運営や関係団体との連携

◎首長部局（まちづくり交通課、共生社会推進課）

・教育委員会と連携・協働して、住民自治組織やスポーツ団体等との連携

◎コーディネーター

・各種会議の企画・運営等に係る業務や関係団体等との連携

年間の事業スケジュール

事業スケジュール	
4月	・三次市地域クラブ（仮称）推進協議会発足に向けた委員の選定及び委嘱 ・野球クラブ（甲奴中学校区）始動 ・三和中学校とみわスポーツクラブとが連携し、既存の部活動の卓球、ソフトテニス、新規種目であるバスケットボール、バレーボールの始動について、取組を進める。 ・学校、中体連、関係団体、住民自治組織等との連携
5月	・三次市地域クラブ（仮称）推進協議会発足に向けた委員の選定及び委嘱 ・学校、中体連、関係団体、住民自治組織等との連携
6月	・三次市地域クラブ（仮称）推進協議会開催 ・学校、中体連、関係団体、住民自治組織等との連携
7月	・リーフレット、チラシ、ケーブルビジョンでの市民周知 ・学校、中体連、関係団体、住民自治組織等との連携
8月	・学校、中体連、関係団体、住民自治組織等との連携
9月	・三次市地域クラブ（仮称）推進協議会開催 ・学校、中体連、関係団体、住民自治組織等との連携
10月	・学校、中体連、関係団体、住民自治組織等との連携
11月	・学校、中体連、関係団体、住民自治組織等との連携
12月	・三次市地域クラブ（仮称）推進協議会開催 ・学校、中体連、関係団体、住民自治組織等との連携
1月	・学校、中体連、関係団体、住民自治組織等との連携
2月	・三次市地域クラブ（仮称）推進協議会開催 ・学校、中体連、関係団体、住民自治組織等との連携
3月	・マネジメント組織立ち上げ ・学校、中体連、関係団体、住民自治組織等との連携

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		6 クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	3クラブ（部活動）	
	B：部活動にはない種目など、新規の地域クラブ活動数	3クラブ	
全体の指導者数	23人	全体の運営スタッフ数	11人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
軟式野球クラブチーム (シャークス)	NPO法人 GANBO	軟式野球	・平日 1回 ・休日 2回	平日： 18:30～ 20:00 休日： 8:30～ 12:00	1年：3人 2年：4人 3年：1人	通年	3人	5人 (内、兼務0人)	1,500円 /月額	地域クラブとして参加
バレーボールサークル	NPO法人 みわスポーツクラブ	バレーボール	・平日 1回 ・休日 0回	18:30～ 20:00	1年：4人 2年：7人 3年：0人	通年	1人	2人 (内、兼務2人)	3,500円 /年額	大会参加なし
卓球サークル	NPO法人 みわスポーツクラブ	卓球	・平日 0回 ・休日 1回	18:00～ 19:00	1年：1人 2年：0人 3年：2人	通年	1人	2人 (内、兼務2人)	3,500円 /年額	大会参加なし

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 体験会はモデル地域等のNPO法人GANBO、NPO法人みわスポーツクラブ、きりり中学生吹奏楽クラブでそれぞれ開催した。

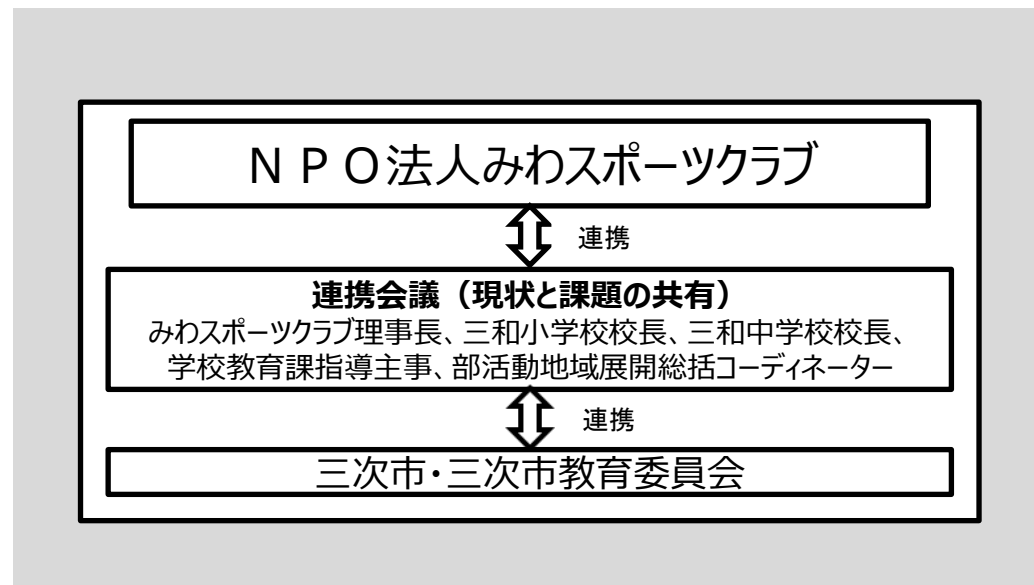
2.実証内容と成果

主な取組例

●クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バレーボール 卓球 バスケットボール
運営団体名	NPO法人みわスポーツクラブ
期間と日数	バレーボール：月4回程度 卓球：月4回程度 バスケットボール：月8回程度
指導者の主な属性	クラブチームの指導者
活動場所	バレーボール：三和中学校体育館 卓球：みわ保健センター バスケットボール：農業者トレーニングセンター
主な移動手段	徒歩、自転車、保護者の送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	3,500円
1人あたりの保険料	参加費に含まれる

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 三次市・三次市教育委員会
役割：小中学生が参加する種目における現状と課題を把握し助言等を行う。
- みわスポーツクラブ理事長
役割：みわスポーツクラブの活動の広報活動や町内の学校等の関係団体との連携を行う。
- 指導者 3名
役割：参加者の安全を配慮しながら各種目における指導を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ①体育協会、スポーツ少年団、住民自治組織等の団体と定期的に連携するとともに、首長部局との定期的な情報共有を行う。
- ②コーディネーターは中学校区ごとに設置している学校運営協議会に出席し、委員に部活動地域展開について周知するとともに、会の中での熟議により、地域展開の当事者意識を高めてもらう。
- ③地域スポーツクラブ活動を実施する上で生じる課題を把握し、適切に解決するために定期的に協議会を開催する。その協議会の中で、推進体制についても協議し、今後のマネジメント体制を確立する。
- ④スポーツコミッションと協力し、子ども対象のイベントを開催する。
- ⑤スポーツ団体が使用している運営マニュアル等を参考にした上で、活動中の生徒のトラブルへの対処法等を明確にする。

取組の成果

- ①体育協会、スポーツ少年団、住民自治組織、文化連盟等との関係団体へのヒアリングを行い、部活動の地域展開に係る不安や要望を把握することができた。
- ②学校運営協議会には出席できなかったが、連携を図った。
- ③本年度は2月に三次市地域クラブ推進協議会を設立し、課題解決に向けて方策を協議する体制を整えた。来年度は課題解決に向けて協議していく。
- ④スポーツコミッションは来年度に推進体制が確立するので、来年度から連携してイベントを企画・実施していく。
- ⑤本年度はできていないが、来年度は情報収集して検討していく。

今後の取組における課題

○運営団体について

現在の運営団体は外部団体ではなく自治体が担い、事務局的に推進しているのは三次市教育委員会である。今後は、運営団体を外部委託できるように令和10年度からの委託を目指して取り組む。

○地域クラブへの登録団体の確保について

令和8年度は、三次市地域クラブへの登録団体の確保に向けて、関係団体との連携を図りながら取り組む。

課題への対応方針

○運営団体について

現段階で想定される運営団体は三次スポーツコミッションや三次市文化連盟等であるが、三次市地域クラブ推進協議会での意見を参考にしながら取り組む。

○地域クラブへの登録団体の確保について

既存のクラブチームや関係団体からのヒアリングや三次市地域クラブ推進協議会での意見をもとに認定要件を策定し募集する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

○部活動の地域展開に係る現状と課題の整理

関係団体（中学校、住民自治組織、スポーツ団体、文化芸術団体）からのヒアリングや児童生徒、保護者、中学校教職員へのアンケート調査等をもとに、現状と課題を整理した。

○推進体制の構築

現状と課題等については、三次市と三次市教育委員会で組織する担当者会議や連携会議で共有し課題解決に向けた協議を行うことができた。また、2月には、三次市地域クラブ推進協議会を開催した。

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

現在は、地域クラブ活動の運営を外部団体ではなく自治体が行っている。本年度は、モデル地域等の甲奴地域、三和地域、きりり中学生吹奏楽クラブとの定期的な連携を図った。また、それぞれに体験会を開催した。

今後は、三次市地域クラブ推進協議会での意見を参考にしながら令和10年度から外部団体へ委託できるように取り組む。



運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

安全確保に向けては、既存のクラブチームや関係団体からのヒアリングにより状況把握を行う。令和9年度には部活動の地域展開を開始するが、実態把握に努めるとともに、安全確保に向けての実施主体への助言や支援を文部科学省の「部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン」を参考にして継続的に行っていく。

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

運営団体である三次市地域クラブでは、相談窓口を設置し、地域クラブ活動を実施する中で起きたトラブルや事故に対する対応する方針である。

相談対応においては、トラブルや事故等が発生した場合の責任の所在を明確にした上で、発生時には、保護者や児童生徒が在籍する学校と適切に連携しながら、迅速かつ丁寧に事故対応を行うとともに、再発防止に向けての対策等の助言を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- ①年5回程度、体育協会、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、地域関係者等を招集し、推進協議会を開催し、さまざまな意見を収集したり、相談したりする機会を設ける。
- ②管理担当者と連携をし、休日の教職員の指導に係る兼職兼業について明確化する。
- ③スポーツ推進の担当課主催の指導者研修を定期的に行い、指導者の質の向上を図る。（健康管理、事故防止、暴力、ハラスメント等についても含む）
- ④コーディネーターがハブとなり、学校と運営団体、実施主体との連携を定期的に行う。

取組の成果

- ①については、本年度2月に第1回三次市地域クラブ推進協議会を開催した。来年度は年3回程度開催し、課題解決に向けた意見を聞く予定である。
- ②教職員の地域クラブ指導の意向を把握したが、兼職兼業についての教職員への周知はできていない。
- ③三次市地域クラブは来年度に設立する予定であるので、指導者の研修会は本年度実施していない。
- ④コーディネーターがハブとなり、学校や関係団体との連携を図り、部活動の地域展開への理解を深めた。

今後の取組における課題

- ①三次市地域クラブ推進協議会の立ち上げまでの日数を要したのは、関係団体の部活動の地域展開への理解を得るためである。
- ②教職員の兼職兼業に向けての取組は実施できていない。今後、兼職兼業に関する要綱等を策定して取り組む予定である。
- ③運営団体はまだ発足させていないので研修は実施できていない。来年度の実施を考えている。
- ④コーディネーターは継続して関係団体との連携を図るとともに、三次市地域クラブ推進協議会の意見をもとに三次市地域クラブの設立に向けて取り組む。

課題への対応方針

- ①関係団体の一定の理解を得ることができたので、今後の推進協議会では課題解決に向けた方策を聞きながら、取り組みたい。
- ②指導者の募集において、教職員への兼職兼業についての周知を図る。
- ③地域クラブの指導者研修は来年度に県や市の担当課と連携して開催していく。
- ④計画的・継続的に連携を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ①定期的に開催する推進協議会等で体育協会、スポーツ少年団、住民自治組織等の団体と連携を図るとともに、首長部局との定期的な情報共有を行う。
- ②学校運営協議会の中で、「地域で何ができるか」についてアイデアを出し、その内容を各地域のスポーツ推進委員に情報提供をする体制づくりを進める。
- ③市として交通手段について支援することは考えていないため、既存の公共交通機関等の利用を推進する。
- ④地域共創部（スポーツ推進担当、地域振興担当）と連携を密に図るとともに、スポーツコミッションの動きが軌道に乗ってきたタイミングで協働できる体制を築く。

取組の成果

- ①体育協会、住民自治組織等の関係団体との連携を図ることで、部活動の地域展開への一定の理解を得ることができた。また、首長部局である地域共創部とは定期的に会議を開催し、情報や課題等についての共有を行うことができた。
- ②本年度は学校運営協議会への出席はしなかったが、連携は図った。
- ③市が考える移動手段についてはチラシで周知した。しかし、アンケートでは保護者の不安が一番多かったのが「子どもの送迎」であった。
- ④地域共創部と教育部の職員で組織する「担当者会議」や「連携会議」を定期的に行って連携を図っている。スポーツコミッションは、まだ軌道にのっていない状況である。

今後の取組における課題

- ①既存のスポーツ団体からのヒアリングでは大会が土日であり、休日のみの参加が困難であることから、平日も参加しやすい仕組みづくりが必要である。
- ②学校運営協議会とは、子どもの居場所のひとつとなる環境づくりに向けて連携を図っていく。
- ③地域クラブへの参加は三次市全域を対象としているため、子どもの移動手段については完全展開に向けての課題として捉えている。
- ④地域共創部と教育部の職員で組織する「担当者会議」や「連携会議」は継続して連携を図っていく。スポーツコミッションとは、軌道にのった段階で連携を図る。

課題への対応方針

- ①平日の地域クラブへの参加については、小規模校の多くが部活動に全員が加入している実態があるので、地域クラブに参加する生徒には学校と連携して参加しやすいようにする。
- ②学校運営協議会には、三次市地域クラブの設立に向けて、協力体制を構築する。
- ③三次市地域クラブ推進協議会の意見をもとに、支援について検討していく。
- ④スポーツコミッションとは、運営に関する連携を図っていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

○市町を超えた活動になる団体がある場合は、他の市町との連携を図る。
令和7年度では、モデル地域としている団体の募集や体験会の案内を団体が拠点とする地域に隣接する市町との教育委員会との連携を図った。
令和9年度は休日の地域展開を開始するので、各団体に所属する児童生徒を把握し、他の市町の児童生徒が所属する団体については必要に応じて他の市町との連携を図る。

取組の成果

○モデル地域としている団体には、拠点とする町に隣接する市町の生徒が所属して活動できた。また、隣接する市町とは、本市の部活動の地域展開の現状や課題を伝えるとともに、他市の状況も把握することができた。また、他市との情報交換を行うことで、課題解決の方策を考えていく過程で参考にすることができた。

連携日	自治体名	連携方法	内容
令和7年5月26日	静岡県掛川市	オンライン	掛川市の課題解決の取組について
令和7年6月3日	広島県東広島市	来庁	両市の現状と今後の取組について
令和7年9月29日	香川県三豊市	視察	三豊市の放課後改革について
令和7年10月17日	広島県府中市	来庁	三次市の現状の課題と今後の取組について

今後の取組における課題

○既存のスポーツ団体では、少子化の影響で隣接の市町の子どもと一緒に活動する団体が増えている。その実態把握を行い、隣接する市町との連携を図っていくことが課題である。具体的には、他の市町の生徒が休日だけでなく平日の放課後の活動にも参加できる環境を整備していくとともに、大会参加にあたっては、生徒が学校部活動と地域クラブのどちらで大会出場するかを事前に確認することなどを行っていく。

課題への対応方針

○三次市地域クラブへの登録団体で他市町の子どもと一緒に活動する場合は、対象の市町との連携を図っていく。課題とその対応方針は次の事項である。

- ・他の市町の生徒が平日の放課後に地域クラブの活動に参加する場合は、在籍する学校の理解を得て、参加しやすい環境にする。
- ・大会参加にあたっては、学校部活動と地域クラブのどちらで出場するのかを明確にして、学校部活動と地域クラブでの情報共有を行うことができるようにする。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

- ①総合型地域スポーツクラブの活動においては、児童・生徒に希望種目をアンケート調査し、種目を準備する等、児童・生徒のニーズに応じた活動を展開する。また、学校運営協議会において、児童・生徒の声を反映できる仕組みを確立し、地域に受け皿を設ける。
- ②地域展開への理解促進のため、保護者、地域、学校に向けた説明会やリーフレット配布を行う。

取組の成果

- ①総合型地域スポーツクラブでは、児童・生徒の希望種目を把握して、その種目の活動を開始することができた。開設した種目は児童・生徒のニーズが多かったバレーボール、バスケットボール、卓球、パン作りであった。さらには、琴と茶道を開設する予定である。
- ②保護者、地域、学校の地域展開への理解促進は、チラシやリーフレットの配布や関係団体への説明会を実施できた。



今後の取組における課題

- ①生徒の地域活動への参加促進の取組として、学校運営協議会での生徒の声を反映できる仕組みづくりが課題である。
- ②地域展開への理解促進では、広く市民に理解してもらうように、Q&Aを含むチラシの配布、市の広報誌への掲載、PR動画の配信などの情報発信や、イベントの開催を取り組むことが課題である。

課題への対応方針

- ①児童・生徒の声を反映できる場を設定していく。その後、児童・生徒のやりたい活動を週1回程度、放課後に地域と人たちと一緒に活動できるようにしていく。
- ②Q&Aを含むチラシでは、これまでのヒアリング等で出ている質問に答える内容にしていく。市の広報誌では部活動の地域展開の概要とともに本市の地域クラブへの団体登録の募集を行っていく。また、PR動画を作成しHPで視聴できるようにする。イベントでは、講演やPR動画等で、市民への広報を行う予定である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

○原則、運営団体となる団体が受益者負担額を設定し、運営することとするが、定期的に開催する推進協議会等の中で、体育協会、スポーツ少年団、住民自治組織等の団体から諸費についての意見を吸い上げ、実施主体となる団体等に情報提供する。設定した諸費についての説明は、実施主体となる団体が行うこととする。

取組の成果

○参加費用については、保護者へのアンケート調査を実施した。その結果は、次のとおりであった。

【1か月あたりの費用の上限】

- ①1,000円 21%
- ②2,000円 23%
- ③3,000円 31%
- ④4,000円 4%
- ⑤5,000円 10%
- ⑥必要な費用の上限はない 12%

今後の取組における課題

○保護者の75%が1か月あたりの費用の上限3,000円以下をしめている。そのため、実施主体ができる限り低廉な参加費の設定することができるよう、支援をしていくことが課題である。

○本市では活動費を受益者負担としているが、費用負担の軽減や経済的困窮家庭への支援については課題としている。

課題への対応方針

○三次市地域クラブへの登録にあたっては、実施主体が低廉な参加費設定ができるように補助金等の支援を検討する。

○家庭の費用負担軽減については、財源の確保を検討しながら補助対象を協議していく。経済的困窮家庭への支援については、国の補助金の活用等を検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

○地域クラブの登録団体への支援として、学校施設と学校備品の活用を検討した。特に、地域クラブの登録団体での活動以外に、各中学校区で、週1回程度、放課後の時間帯に地域の人たちと一緒に活動できる環境づくりを検討した。具体的には、放課後や休日に学校の音楽室等の使用希望があったりした場合に対応できるように学校施設の整備やシステム等について調査をした。

取組の成果

○音楽室等の利用のための学校施設の整備の調査では、夜間や休日の利用を可能にするための整備やシステムの改善内容を把握することができた。また、学校・社会体育施設の使用料の減免措置や学校備品の活用については、継続課題として検討している。当面は学校・社会体育施設の使用料の規定の見直しの予定はない。学校備品の活用については、検討を継続している。

今後の取組における課題

○施設管理者からは、使用料の減免が増えることによる施設維持への不安の声があり、そのことへの補助が課題である。そのため、現段階では、使用料の減免についての規定は見直すことは考えていない。
○学校の音楽室等の利用や学校備品の活用の希望は現段階ではないが、休日の部活動展開がスタートする令和9年度には希望調査をしたい。

課題への対応方針

○学校施設の利用や学校備品の活用については、部活動の地域展開を開始していないので、利用希望等の把握ができてない。部活動の地域展開を開始する令和9年度には希望調査等を行い、必要に応じて環境整備や規定の見直し等を検討していく。この対応では、他の市町の対応事例を参考にしながら進めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

○モデル地域を軸とした平日の先行実施を行い、部内協議、関係部局との連携会議、三次市地域クラブ推進協議会等を定期開催していく。その中で、校長会、スポーツ団体、スポーツ少年団、文化芸術団体、住民自治組織、等の関係団体ヒアリングで出された課題等を共有し、その課題解決に向けた具体的方策を協議していく。

取組の成果

○令和7年度は、三次市地域クラブ推進協議会を発足させることができた。その推進協議会には、モデル地域の代表者、校長会、スポーツ団体、文化芸術団体、住民自治組織、PTA連合会、商工会、学校運営協議会などの関係団体から出席をしていただき、部活動の推進における課題を共有しながら、課題解決に向けた協議を行うことができています。

今後の取組における課題

○モデル地域では学校との連携で生徒が参加しやすい体制ができている地域とそうでない地域がある。具体的には、休日の活動において、地域クラブ活動と学校部活動で、生徒が板挟みになっている実態がある。その課題解決のためには、学校が地域クラブ活動を理解して生徒が参加しやすくなるように、学校への説明をしていくことが必要である。具体的には、校長会や教頭会で説明をするとともに、Q&Aを含むチラシ等で教職員への周知を図っていく。

課題への対応方針

○生徒が希望する活動に参加できる環境づくりを進めていく。そのため、生徒、保護者、教職員の部活動の地域展開への理解を得る取組をさらに行うことが必要である。特に、次のことを学校と連携して取り組む。

- ・市内の全中学校で部活動の任意加入の徹底。
- ・中学校体育連盟への登録や大会参加についての対応。
- ・休日の地域行事への参加についての対応。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

①モデル地域等である甲奴地域、三和地域の一部の部活動が地域での展開をすることができた。また、吹奏楽は月1回程度、全市を対象として展開できた。

「土日の地域に移行した活動は、楽しい、充実している」の肯定的回答が80%になることを目指し、結果は肯定的回答は100%であった。教員の「教材研究等、授業準備の時間が確保されるようになった」に係る調査は平日展開をしていないので実施していない。

②中学校、住民自治組織、スポーツ団体、文化芸術団体等からのヒアリングを行い、「部活動の地域展開」の周知と理解への取組を行い、一定の理解を得て協力体制ができてきている。

③小中学生、教員、保護者へのアンケート調査を行い、ニーズや実態把握ができた。それらのことをもとに、課題整理をして今後の進め方について協議することができた。

④三次市地域クラブ推進協議会は2月に第1回を開催し、進捗状況の報告や今後の方向への意見収集をすることができた。

●成果の評価

本年度の実証事業における取組にて、次の昨年度からの課題を解決できた。

○モデル地域での実働をはじめ、部活動地域展開総括コーディネーターの細やかな連携を図ることができた。

○部活動の地域展開をマネジメントする組織と運営については、庁舎内における推進体制を整えた。また、三次市地域クラブ推進協議会を2月に立ち上げた。

○部活動地域展開総括コーディネーターが関係団体等との連携を進め、課題等の解決に向けた取組と、他地域・種目への反映を行うことについては、関係団体等の一定の理解を得ることができた。他地域・種目への反映は来年度取り組む。

○広報活動はチラシやパンフレットを作成し、周知を図った。情報収集はアンケート調査や部活動の実態調査を行い、課題整理を行った。

○困窮家庭への支援については、協議継続中である。

○学校施設の活用における施設改修等の予算化は検討中である。

●今後に向けて

次の来年度の事業計画（案）に基づいて推進する。

4月～6月：三次市地域クラブへの認定要件の整理

5月～7月：受け皿の掘り起こし

7月：三次市地域クラブの素案作成

8月～10月：登録団体の募集

12月：三次市地域クラブ設立

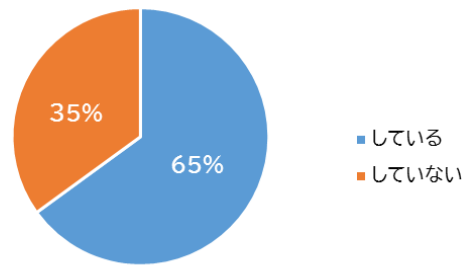
広報活動は、PR動画の作成やシンポジウム・説明会・体験会などの開催で行う。

2.実証内容と成果

アンケート結果・参加者/関係者の声

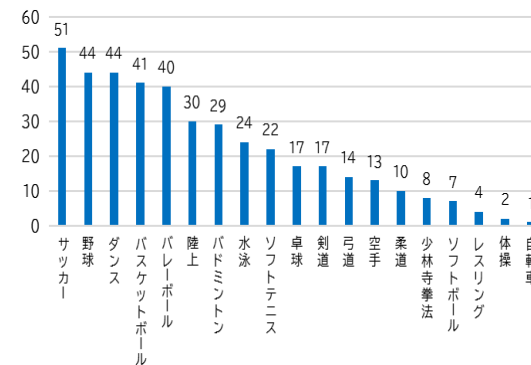
●児童のアンケート結果

Q1.現在、学校外でのスポーツや文化活動をしていますか？

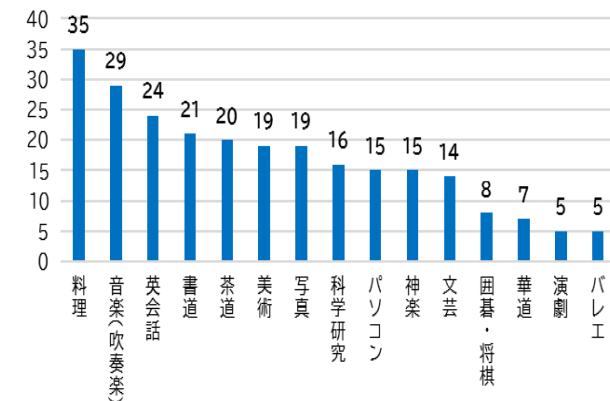


学校外でスポーツや文化活動をしている割合 (%)

Q2.中学校入学後に、学校外でやりたい活動は何ですか？

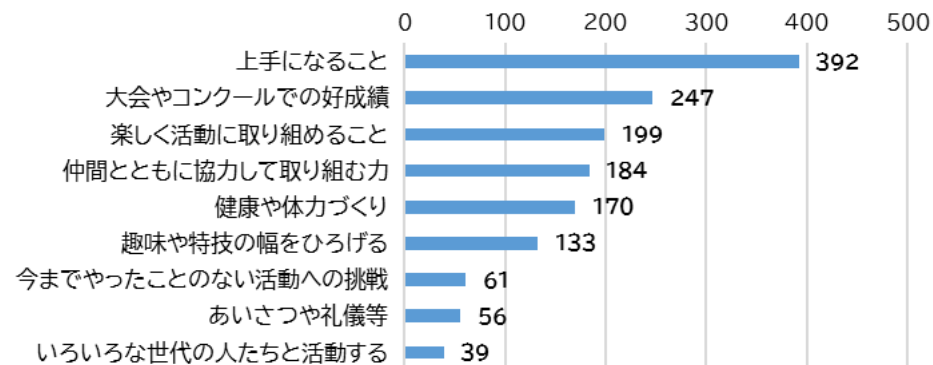


学校外で取組みたいスポーツ (人)



学校外で取組みたい文化活動 (人)

Q3.スポーツや文化活動では、どんなことをめざしますか？



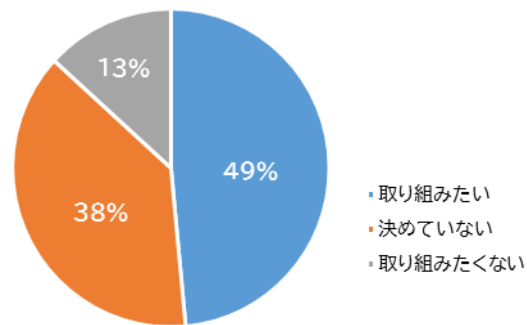
スポーツや文化活動でめざすもの (人)

2.実証内容と成果

アンケート結果・参加者/関係者の声

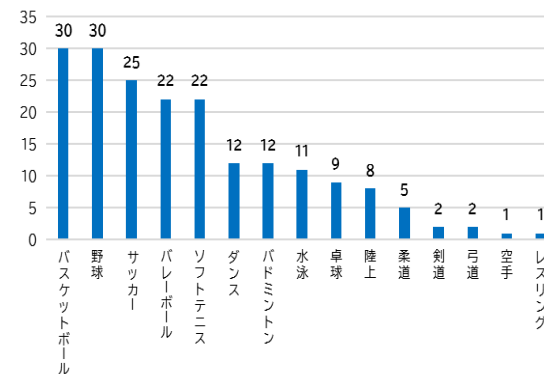
●中学生のアンケート結果

Q1.休日（土日）に地域（学校外）でのスポーツや文化活動に取り組みたいですか？

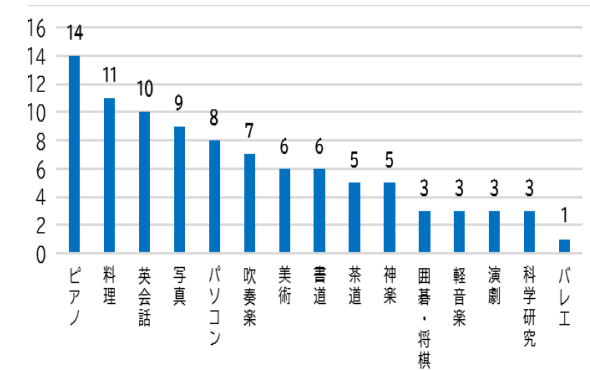


休日の地域への活動への参加について (%)

Q2.休日に学校外でどのような活動にとりくみたいですか？

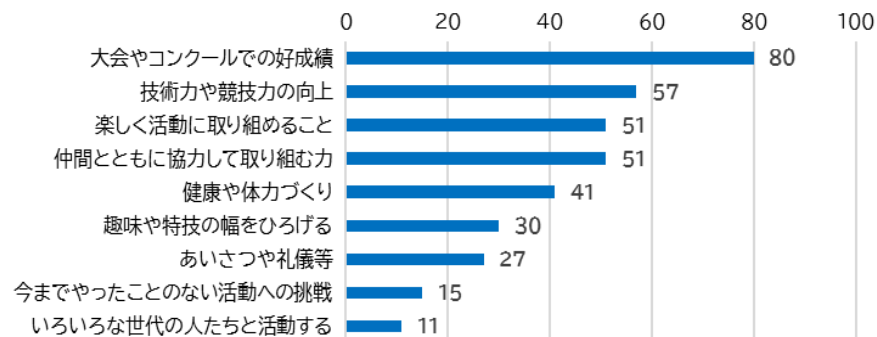


休日に地域で取り組みたいスポーツ活動 (人)



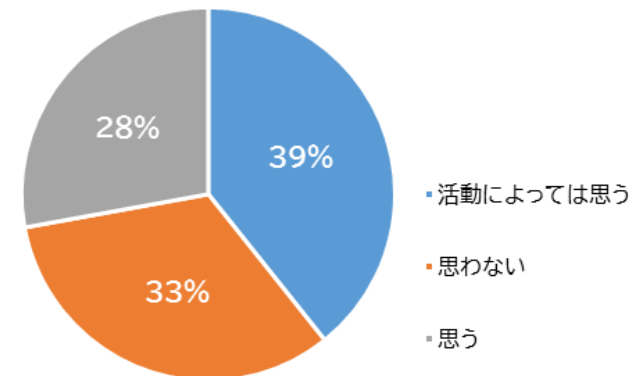
休日に地域で取り組みたい文化活動 (人)

Q3.休日の地域でのスポーツや文化活動では、どんなことをめざしますか？



休日の地域での活動でめざすもの (人)

Q4.地域での囲碁・将棋、料理、神楽などの活動で、いろいろな世代の人たちと一緒に活動しようと思いますか？



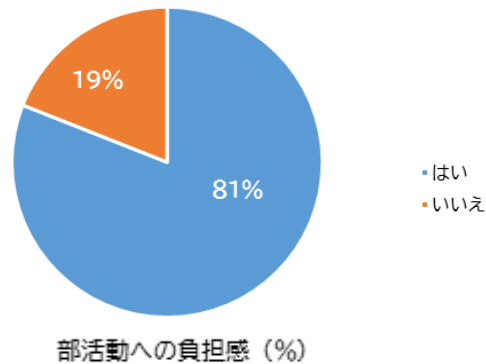
いろいろな世代の人たちの交流について (%)

2.実証内容と成果

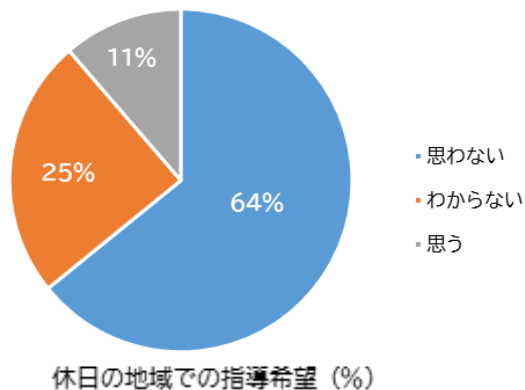
アンケート結果・参加者/関係者の声

●中学校教員のアンケート結果

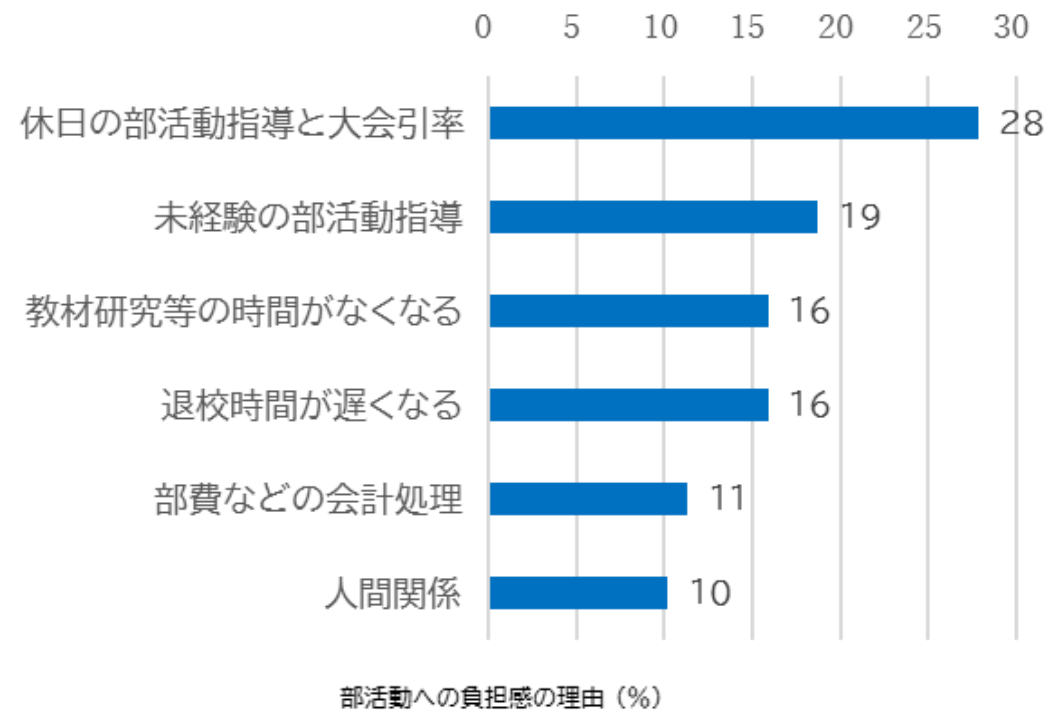
Q1.部活動の担当をしている中で、
負担を感じていますか？



Q3. 休日に地域（学校外）でのスポーツや
文化活動の指導に関わりたいと思いますか？



Q2. どのようなことに負担を感じていますか？



2.実証内容と成果

参考資料



【軟式野球の体験会】



【軟式野球チーム（シャークス）】



【きりり中学生吹奏楽クラブの練習の様子】



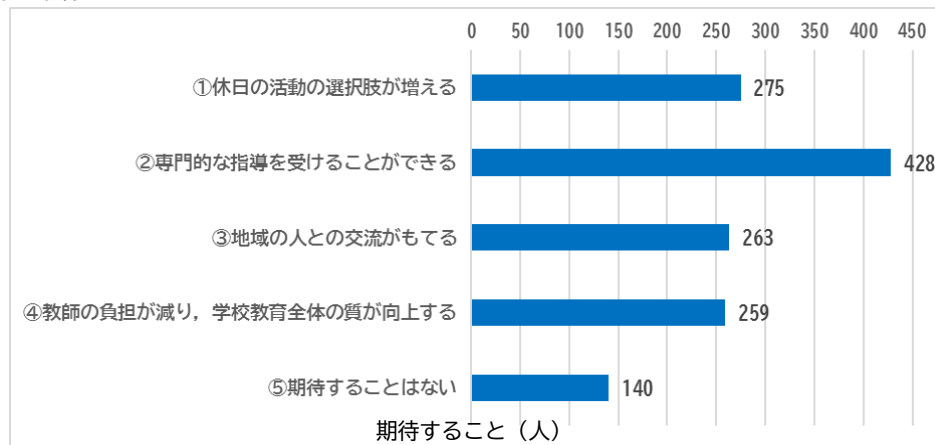
【きりり中学生吹奏楽クラブの練習の様子】

2.実証内容と成果

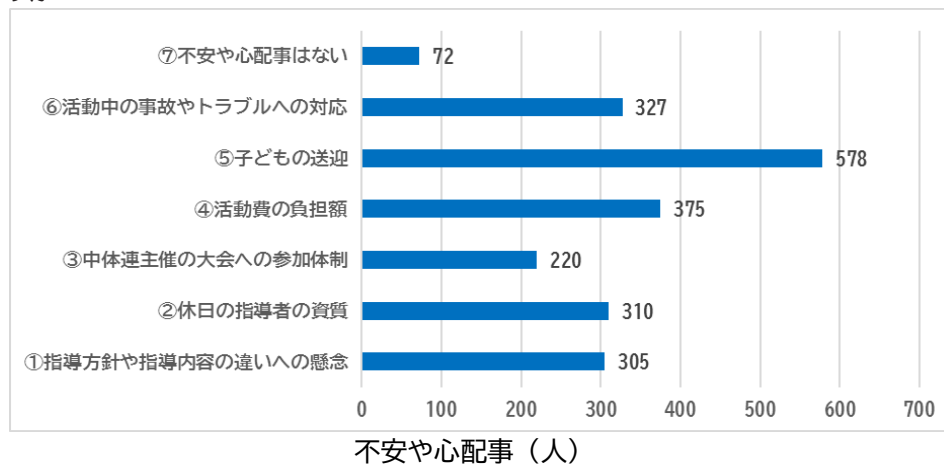
アンケート結果・参加者/関係者の声

●保護者のアンケート結果

Q1.地域でのスポーツや文化芸出団体等にお子様が参加することについて期待することはありますか？



Q2.地域でのスポーツや文化芸出活動等に参加することについての不安や心配事がありますか？



参加者/関係者①

中学校では部活動時間等が少ないので、思いっきり部活動ができない。他のクラブチームに入りたいと思っている。

参加者/関係者②

競技では部活動と休日の活動に分けることができないのではないかと？指導者が変わることの方針も変わる。活動費も違うので我慢しないといけない子どもたちはどうするのか？

参加者/関係者③

地域での活動への参加の可否は、家庭や保護者の事業が影響する。スポ少やクラブチームのように、保護者が運営を手伝うのが前提となるような活動だと、参加できる子どもは限られるのではないかと心配。

参加者/関係者④

大会は基本的に土日祝日開催です。大会参加判断、手続き、費用徴収、日程調整など諸々を地域又は保護者に移管されることであれば非常に強い不安を覚えます。

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

基本方針策定
検討委員会
アンケート調査

モデル地域の取組
中学校との連携

令和6年

中学校との連携
検討委員会

モデル地域等との連携

令和7年

関係団体ヒアリング
アンケート調査
推進協議会
体験会の開催

令和8年

地域クラブ募集・認定
三次市地域クラブ設立
説明会・体験会

●ステークホルダー

NPO法人スポーツクラブ

●経過

令和5年 地域移行に係る説明と依頼

令和6年 連携会議、アンケート実施

令和7年 連携会議、体験会の開催
活動をスタート

●実施にあたって生じた課題

- ・指導者の確保
- ・生徒が平日に参加しやすい環境づくり

●実施内容、工夫した点 等

- ・町内の小中学校との定期的な連携
- ・令和7年度はバレーボール、バスケットボール、卓球、パン教室の活動を開始した。今後は、琴、茶道を開設予定である。

●ステークホルダー

NPO法人地域活性化プロジェクトチーム

GANBOの軟式野球チーム（シャークス）

●経過

令和5年 地域移行に係る説明と依頼

令和6年 連携会議

令和7年 連携会議、体験会の開催
活動をスタート

●実施にあたって生じた課題

- ・指導者の報酬や収益事業の企画
- ・運営に係る事務局の人材
- ・生徒の参加しやすい環境づくり

●実施内容、工夫した点 等

- ・保護者に会員になってもらうこと。
- ・活動資金は、NPO法人の事業収入や寄付、スポンサーなどの取組を行う。
- ・現在は、軟式野球のみであるが、今後は種目の拡大を検討していく。

●ステークホルダー

きりり中学生吹奏楽クラブ

●経過

令和5年 地域移行に係る説明と依頼

令和6年 連携会議、活動をスタート

令和7年 連携会議、体験会の開催

●実施にあたって生じた課題

- ・楽しく学べる場の提供
- ・受益者負担の必要性
- ・楽器の破損に係る保障
- ・大型楽器の搬入・搬出

●実施内容、工夫した点 等

- ・市内の7校のから35人の中学生が部員となって活動している。
- ・令和7年度は各種コンサートやイベントに出演した。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

令和8年度 部活動の地域展開に係る事業計画（案）

- 1 三次市地域クラブ推進協議会の開催（年3回） 7月、11月、2月
 - ・部活動地域展開連携会議の開催（月1回）
 - ・部活動地域展開担当者会議の開催（週1回程度）
- 2 三次市地域クラブの設立（12月）

事務局：三次市教育委員会（当面）

将来的には、外部団体への委託による実施を目指す（令和10年度実施を目標）。

※想定される団体：

三次スポーツコミッション、三次市文化連盟など

令和8年度は課題の整理及び解決策の検討
- 3 モデル地域での実証（甲奴、三和、吹奏楽）

継続実施及び課題の整理及び解決策の検討

※受け皿の掘り起こしに併せて、新たなモデルの募集・実施（7月～）
- 4 部活動地域展開の周知
 - ・PR動画の作成（9月頃までに作成）
 - ・シンポジウムの開催（11月）
 - ・説明会の開催（どのように開催するか要検討）

【体験会の実施】

 - ・モデル地域等で実施（委託による実施も検討）
 - ・地域展開お試し月間の実施（時期は要調整）

地域クラブへの登録を希望する団体を中心に1か月お試しで実施する。

【設立に向けた準備】

- 4月～6月 : 三次市地域クラブ（仮称）への登録要件の整理
- 5月～7月 : 受け皿の掘り起こし（各団体へのヒアリング）
※課題の整理など
- 7月 : 三次市地域クラブ（仮称）の素案作成
※7月開催予定の推進協議会で協議
- 8月～10月 : 設立に向けた準備（※推進協議会での意見等を基に修正）
ホームページの作成等
- 8月～10月 : 登録団体の募集
- 12月 : 設立（生徒への周知及び募集開始）

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

広島県安芸高田市

自治体名： 広島県安芸高田市

担当課名： 学校教育課

電話番号： 0826-42-5628

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	537.71km ²
人口	25,304人
公立中学校数	6校
公立中学校生徒数	567人
部活動数 (運動部活動のみ)	21部活
地域クラブ活動数	3クラブ
市区町村の協議 会・検討会議等 の設置状況	設置予定あり 協議会設置準備 関係者会開催
市区町村の推進計 画・ガイドライン等の 策定状況	策定に向けて 準備中

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

安芸高田市は広島県の中山間地域に位置し、人口は25,304人の自治体である。全国的な少子化の影響も受け、本市の中学生数は2013年には689人だったが、2025年には567人となり、この12年間で120人以上減少している。生徒数の減少に伴い、6つある中学校のうち5校が単学級となり、部活動の種類が縮小し、1つの部活動に所属する生徒数も少なくなっている。特にチームスポーツでは単独校での参加が難しい競技が増え、合同チームで大会に出場する等、工夫しながら部活動を維持している状況である。

本市が抱える主な課題は次の3点である。

○地域スポーツクラブの受け皿不足

地域スポーツクラブの数が限られており、生徒の希望に十分応えられない。活動拠点も吉田町に集中しているため、周辺5町からのアクセスが悪く、保護者による送迎が必要となり負担が大きい。

○指導者確保の問題

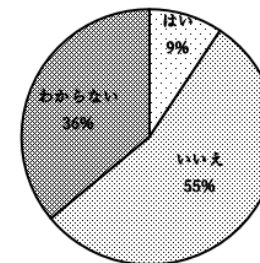
2022年に実施した教職員の部活動地域移行に関するアンケートでは、地域移行後も地域スポーツクラブに関わりたいと回答した教職員はわずか9%にとどまった。今年度実施した業務量に関するアンケートにおいても、部活動の早期の地域展開を除く記載があった。地域人材の発掘も求められるが、短時間の指導や謝金の水準では担い手を確保するのが難しい状況である。

○活動場所の確保

本市は広範囲にわたり、地域によっては島根県境に接する地区もある。活動場所の確保や、そこまでの移動手段の確保が大きな課題となっている。

存続が難しい部活動

部活動名	A 中	B 中	C 中	D 中	E 中	F 中
バレーボール (男子)	—	—	3 校合同チーム (1 校他町立中学校)		—	—
野球	—	○	4 校合同チーム (3 年生引退後、1 校活動休止)			
バスケットボール (女子)	2 校合同チーム		—	—	○	—
ソフトボール	—	3 校合同チーム (3 年生引退後、1 校活動休止)			—	—

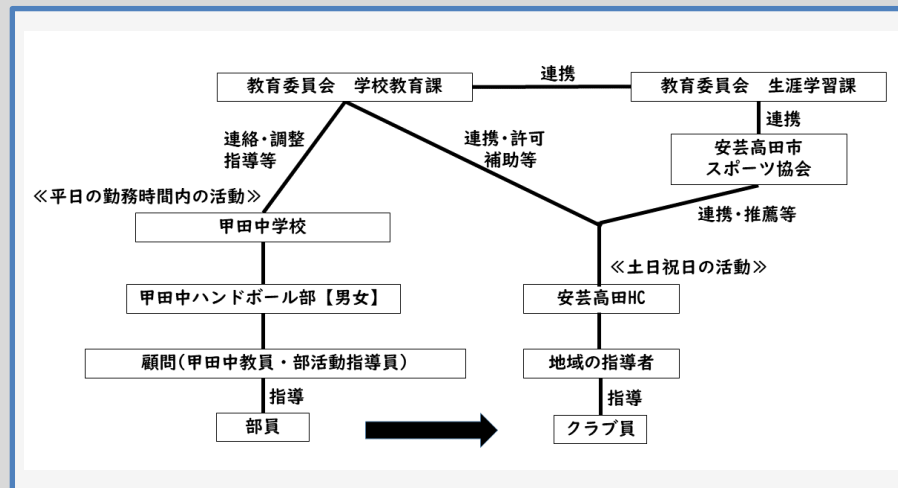


2022年部活動地域移行アンケート調査【教職員対象】2022年12月実施
問 活動を地域移行にしたとき、あなたは安芸高田市の地域指導者の一員として、地域のクラブ活動に関わりたいですか。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●組織内での役割分担

◎教育委員会（学校教育課）

- ・安芸高田HCと学校との連絡調整、各校の部活動の状況把握、連携
- ・地域展開協議会の検討、開催

◎教育委員会（生涯学習課）

- ・安芸高田市スポーツ協会、地域スポーツクラブ等との連携
- ・地域展開協議会の検討、開催

◎スポーツ協会

- ・指導者の育成、推薦、選定
- ・地域スポーツクラブ等との連携

年間の事業スケジュール

令和7年4月	地域展開に係る担当者打合せ
令和7年5月	地域展開に係る担当者打合せ
令和7年8月	地域スポーツクラブ運営者との意見交換
令和7年11月	部活動支援員との意見交換
令和7年2月	地域スポーツクラブ指導者との意見交換 部活動支援員との意見交換
令和7年3月	地域展開協議会設置準備関係者会 次年度計画の検討

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		3クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	2クラブ（3部活動）	
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数	0クラブ	
全体の指導者数	4人	全体の運営スタッフ数	4人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数	会費	大会参加方法
安芸高田HC	地域スポーツ団体等運営型	ハンドボール	月15回、週3回	平日 17:30～19:30	1年：14名 2年：9名 3年：12名	通年	甲田中学校 体育館	2名 （他クラブと兼務）	2名 （内、兼務0名）	月会費 3,000円
安芸高田UNITE	地域スポーツ団体運営型	野球	月8回、週2回	午前 午後	1年：5名 2年：5名 3年：12名	通年	吉田中学校 グラウンド他	2名 （他クラブと兼務）	2名 （内、兼務0名）	月会費 3,000円 育成会費 2,000円

スポーツ

5

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

- 取組項目名 **ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備**
 イ：指導者の質の保障・量の確保 **ウ：関係団体・分野との連携強化**

取組事項（ア）

地域クラブ指導者、市教育委員会担当者、学校の三者が直接連絡を取り合う体制について、本年度はさらに定着が進み、活動調整や生徒情報の共有が円滑に行えるよう取り組みを進めた。また、部活動指導員との個別意見交換を継続的に実施し、現場の課題把握や改善策の検討が継続的に行える環境づくりを進めた。加えて、地域移行協議会の設置に向けた準備を進行し、関係者間の役割分担や協議事項の整理を進める等、地域移行に向けた体制整備を進めた。これらの取組により、平日の学校部活動と地域クラブ活動との連携強化に向けた調整を継続して実施した。

取組の成果（ア）

関係者間の連絡・調整が迅速化し、活動運営の安定化に寄与した。指導者と学校が直接連携する体制が確立したことで、生徒の活動状況を把握しやすくなり、支援の質向上につながった。また、地域展開協議会の準備が進んだことで、今後の方向性整理に向けた基盤が整備され、地域移行に向けた具体的な検討が進めやすい状況となった。

今後の課題と対応方針

【今後の課題】地域展開協議会の開催が遅れ、市としての方向性やロードマップが未整理である。また、地域クラブ指導者を部活動指導員として任用する体制は進んでいるものの、大会参加時の兼職兼業の制度的制約が依然として課題である。また、他の競技の受け皿や活動場所の確保は十分に進んでいない。さらに、他市町からの参加増に対し、費用負担や広域連携の枠組みが未整備である。

取組事項（イ、ウ）

スポーツ協会及び各競技団体との連携については、地域移行を進めるうえで重要であるとの認識のもと、今後の協力体制構築に向けた検討を進めた。また、地域クラブで活動する指導者を部活動指導員として任用し、学校現場における専門性の確保に努めた。さらに、地域クラブ運営者・指導者との定期的な意見交換を実施し、課題の共有や改善策の検討を継続した。市教育委員会と地域クラブとの情報共有体制についても、昨年度より円滑に進むよう調整を行った。

取組の成果（イ、ウ）

地域クラブ指導者を部活動指導員として任用したことで、専門性を備えた指導体制が維持され、教育的視点を踏まえた活動が継続された。また、部活動顧問の負担軽減につながり、教員の働き方改革にも一定の効果が見られた。今年度はアンケートを実施していないものの、地域展開に対する生徒・保護者の理解は昨年度より深まりつつあり、学校と地域クラブの役割分担も明確化してきている。これにより、課題への対応が迅速になり、連携体制の基盤が強化された。一方で、地域全体での受け皿づくりについては、引き続き検討段階にあり、具体的な前進には至っていない。今後も関係者間で協議を重ね、持続可能な体制構築に向けた取り組みを継続していく必要がある。

【対応方針】地域展開協議会を早期に開催し、市としての方向性やロードマップを整理する。スポーツ協会・競技団体との連携の必要性を踏まえ、専門指導者確保や制度的課題の整理を進める。地域クラブとの協議を継続し、受け皿拡大と活動場所確保に向けた調整を行う。また、他市町との広域連携について、費用負担の在り方を含め協議の場を設け、持続可能な体制構築を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項（オ）

○取組内容地域クラブ指導者及び部活動指導員との意見交換を行い、受け皿の確保や指導内容に関する課題を共有した。また、近隣の高校生が地域クラブの一員として活動を支援する事例も生まれており、地域全体での協力体制の広がりが見られた。さらに、他競技の指導者・運営者とも地域クラブへの展開に向けた意見交換を実施し、競技横断的な課題や可能性について整理を進めた。また、地域の特色を生かしたクラブ活動（神楽、カヌー等）の新設について協議した。

取組の成果（オ）

地域展開に向けた課題を関係者間で共有し、他競技への展開に必要な検討事項を整理していく。また、高校生、大学生を含む地域人材の参画を促し、地域クラブの活動を支える多様な協力体制の構築を進める。指導内容の質向上に向けて、地域クラブとの協議を継続し、活動内容の改善や受け皿拡大に取り組む。あわせて、学校施設の利用調整を進め、活動場所の確保と環境整備を継続して図る。

今後の課題と対応方針

【今後の課題】地域クラブ指導者・部活動指導員との意見交換を通じて課題整理が進んだ一方、競技ごとの受け皿拡大や指導体制の強化には、引き続き地域人材の確保が必要である。費用負担の支援については、保護者負担の急増を抑制できているものの、他地域からの参加増加に伴い、広域的な費用負担の在り方や連携枠組みが未整理であり、持続可能な運営体制の構築が課題となっている。大会参加に係るサービスの扱いも整理が必要である。

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項（カ）

指導者謝金、協会登録費、保険料、大会参加費、県外遠征に係る旅費等、活動に必要な費用の一部を市として支援し、保護者負担の軽減を図った。また、受益者負担の在り方について、地域クラブと市教育委員会で協議を行い、適切な負担水準の検討を進めた。さらに、大会参加に必要な手続きや関係機関との調整について、市教育委員会と地域クラブが連携して対応し、活動運営の安定化に努めた。

取組の成果（カ）

経済的支援により、保護者の金銭的負担増加を抑制でき、活動継続への理解が得られた。また、参加費用の支援により、生徒が大会に継続して参加でき、競技経験の確保につながった。しかし、他地域からの参加が増加しており、広域的な連携の必要性が明確となり、今後の広域的な協議が必要となっている。

【対応方針】地域クラブ指導者・運営者との協議を継続し、競技横断的な課題を整理しながら、受け皿拡大と指導体制の強化に向けた調整を進める。また、高校生・大学生を含む地域人材の参画を促進し、地域全体で支える協力体制の構築を図る。費用負担の在り方については、他自治体との広域的な連携に向け県へ働きかけ、地域クラブ活動が安定して継続できる環境整備を進める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等、ク：その他の取組

取組事項（キ）

学校施設（体育館）の利用を積極的に調整し、地域クラブの活動場所として提供した。学校と地域クラブの利用調整を市教委が仲介し、円滑な施設利用を実現した。

市の施策として、学校施設の教育的利用においては、全額免除制度を制定している。優先利用の制度は規定していないが、現在は問題なく運用できている。

取組の成果（キ）

継続的に学校施設を利用できており、地域クラブの活動環境を安定して確保できている。地域クラブ活動の金銭的負担、参加生徒の金銭的負担を軽減できている。

今後の取組における課題

地域クラブへの参加者が市外からも増加しており、活動が広域化していることから、近隣市町との連携体制の構築や協議の場の設定等、広域的な運営体制の整備が求められる。また、地域クラブ指導者を部活動指導員として任用することで学校と地域の連携を図っているが、他の競技における人材確保の継続性が課題であり、将来的な指導者育成や後継者確保の仕組みづく

取組事項（ク）

安芸高田HCでは平日の学校部活動の地域クラブ活動への移行を推進するにあたり、地域クラブ活動の指導者を部活動指導員としても任用し、学校と地域の指導体制の一体的な運用を図っている。広報活動として、指導者と連携しチラシ・ポスターを作成し、市内小中学校や地域へ配布する取組を実施した。これにより、地域クラブの認知度向上を図るとともに、参加者拡大につながる広報を強化し、学校部活動から地域クラブへの円滑な移行を支援した。

取組の成果（ク）

平日も含め安定した活動ができている。また、土日の活動については、他市町から複数名の参加があり、広域的な参加者獲得につながっている。地域クラブの存在が再認識され、地域展開したクラブへの理解が深まったと考えられる。

りが必要である。さらに、保護者負担の軽減に寄与している経済的支援については、財源確保や制度の持続性を見据えた検討が不可欠である。これらの課題に対応しながら、地域クラブ活動への移行を着実に進めていく必要がある。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

成果として下記の点が挙げられる。

- 地域移行した地域クラブ活動が安定して運営され、参加者数も概ね確保できた。
- 地域クラブ・学校・市教委の連携体制が昨年度より円滑となり、三者が直接連絡できる仕組みが定着したことで、活動調整や生徒情報の共有が迅速になった。
- 地域クラブ指導者・部活動指導員との意見交換を通じて課題整理が進み、他競技の指導者・運営者との意見交換も行われ、競技横断的な展開の可能性が広がった。
- 高校生が地域クラブの一員として支援に参加する事例が生まれ、地域全体で支える協力体制の広がりが見られた。
- 費用等の支援により、保護者負担の急増を抑制し、生徒が大会に継続して参加できた。
- 専門資格を有する指導者による指導が継続され、競技力向上にも寄与した。

課題として下記の点が挙げられる。

- 地域展開協議会の開催が遅れ、市としての方向性やロードマップの整理が進まなかった。
- 指導者の兼職兼業に関する制度的制約が依然として大きく、長期的な指導体制の確保に不安が残る。
- 競技ごとの受け皿拡大や活動場所の確保は十分に進んでおらず、地域全体での環境整備が課題である。
- 他市町からの参加者が増加する中で、費用負担の在り方や広域的な連携枠組みが未整理であり、持続可能な運営体制の構築が求められる。

●成果の評価

今年度は、昨年度の課題に対して一定の改善が見られた。特に、地域クラブ・学校・市教委の連携体制が強化され、三者が直接連絡できる仕組みが定着したことで、活動調整や生徒情報の共有が円滑になった。地域移行したクラブ活動が着実に軌道に乗りつつある。指導者の質の確保についても、専門資格を有する指導者による指導が継続され、競技力向上に寄与した。さらに、指導者・部活動指導員・他競技の運営者との意見交換が進み、課題整理や競技横断的な展開の可能性が広がったほか、一方で、昨年度からの課題であった地域移行協議会の未開催や、市としての方向性・ロードマップの整理は進まず、制度面の遅れが依然として残った。また、指導者の兼職兼業に関する制度的課題や、他市町からの参加者増加に伴う費用負担・広域連携の在り方等、継続的に対応が必要な課題も明確となった。

●今後に向けて

- 地域展開協議会を早期に開催し、市としての方向性、ロードマップ、具体的な取組内容を整理する。
- 今年度明らかになった制度面の課題や広域的な連携の必要性について、関係者間で共通認識を形成し、持続可能な地域展開体制の構築に向けた協議を進める。
- 地域展開が進んでいない競技について、指導者確保の方法や受け皿づくりの進め方を整理し、地域クラブとの協議を段階的に進める。
- 市スポーツ協会との連携を強化し、専門性の高い指導者の派遣体制や指導内容の充実を図り、競技横断的な支援体制を整備する。
- 他市町からの参加者増加を踏まえ、費用負担の在り方や広域的な連携枠組みについて協議を進め、公平で持続可能な仕組みを検討する。

2.実証内容と成果

参考資料（活動写真、募集チラシ）



【男子 大会参加時の様子】



【女子 大会参加時の様子】



【男子 大会参加時の様子】



【女子 大会参加時の様子】



【募集チラシ】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

先行実施校検討開始
甲田中学校と調整
生徒・保護者への説明

●ステークホルダー

安芸高田市ハンドボール協会
甲田中学校、ハンドボール部生徒及び保護者

●経過

安芸高田市の先行事例として甲田中学校ハンドボール部の休日の活動を地域移行する方向性の決定

●実施にあたって生じた課題

指導者の配置及び兼職兼業
保護者負担の増加

●実施内容、工夫した点 等

同中学校出身のスポーツ指導の
コーチ資格を持つ指導者を配置
受益者負担も考慮しつつ、保護者
や生徒に不利益が被らないように金
銭的な面について協議及び支援

令和5年

地域クラブ活動
の開始

●ステークホルダー

安芸高田HC
甲田中学校ハンドボール部

●経過

平日の活動は部活動で行い、休日の活動は安芸高田HCでの活動に地域移行した。大会については安芸高田HCとして参加し、教員の引率が行わなかった。

●実施にあたって生じた課題

指導者の兼職兼業が認められずに、ボランティアで実施している。

●実施内容、工夫した点 等

教員の兼職兼業に係る考え方が、一定の指針が出ており難しい。指導者は地域の住民であるが、勤務先の所属が他市となっており、難しさがある。

令和6年

地域クラブ活動
の拡大検討

●ステークホルダー

安芸高田市教育委員会

●経過

地域クラブ活動拡大に向けて部活動指導員、地域クラブ活動指導者と意見交換等を実施した。

●実施にあたって生じた課題

移行を目指す部活動と地域クラブ活動とのマッチングが難しい。

●実施内容、工夫した点 等

地域のつながりが深い町であることを活かして、関係者からつながりを作り、意見交換を実施した。

令和7年

地域クラブ活動
の拡大検討及び
活動における課
題解決

●ステークホルダー

安芸高田市教育委員会
関係中学校
指導者（教員）

●経過

地域クラブ活動拡大に向けての検討は継続
安芸高田HC指導者の兼職兼業にかかる課題の整理

●実施にあたって生じた課題

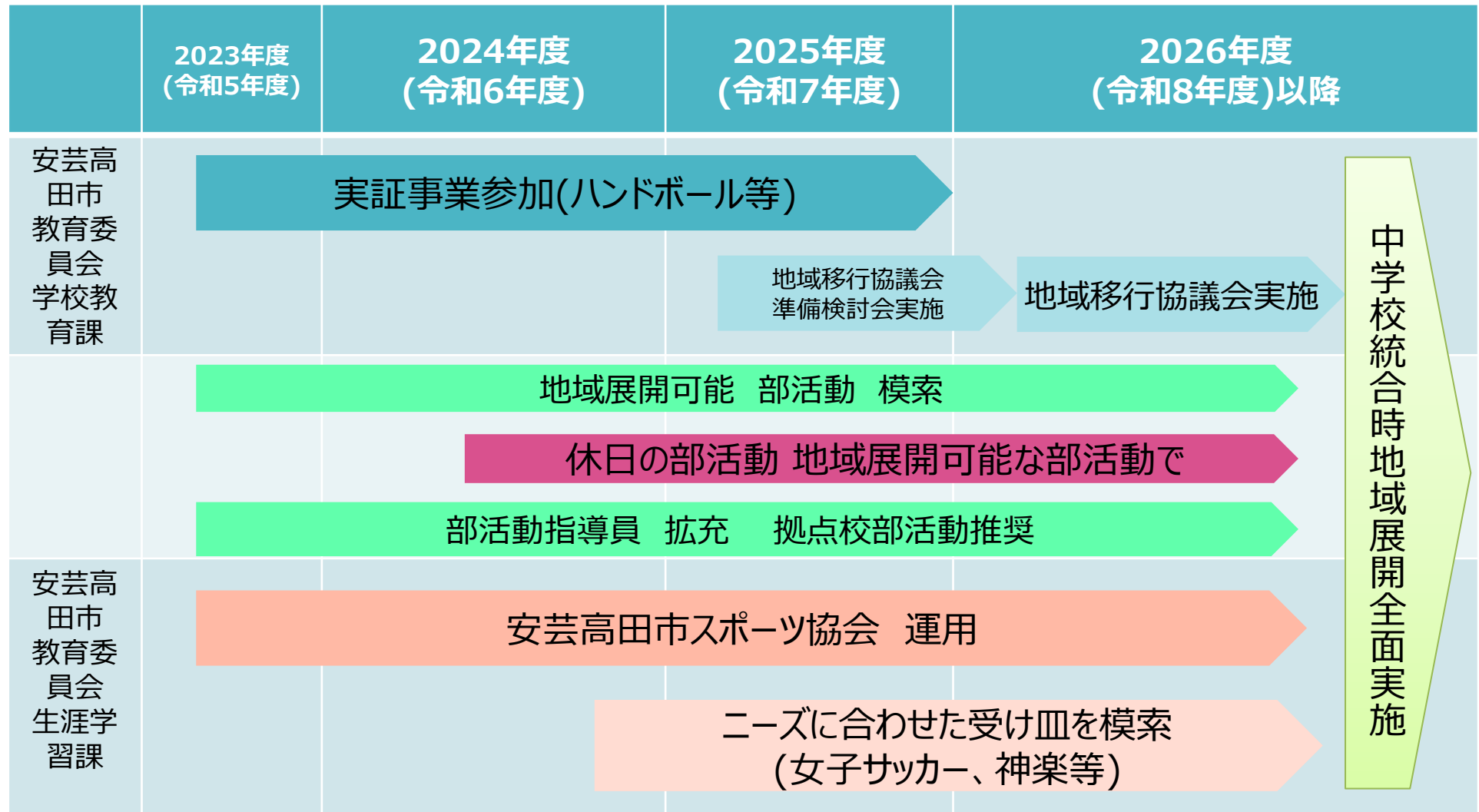
文科省ガイドライン及び県教育委員会見解の整理

●実施内容、工夫した点 等

県教育委員会と綿密に連携し、現段階での規定を整理した。ただし、完全解決には至っていない。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

広島県府中町

自治体名： 広島県府中町

担当課名： 学校教育課

電話番号： 082-286-3271

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	10.41km ²
人口	51,984人
公立中学校数	2校
公立中学校 生徒数	1,294 人
部活動数 (運動部活動のみ)	25部活
地域クラブ活動数	1クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

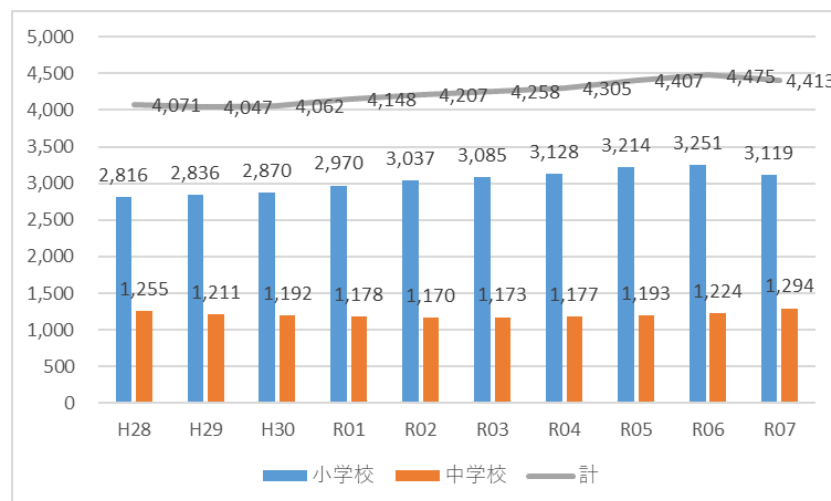
本町は、昭和62年から現在に至るまで人口50,000人台を維持している。町内には小学校5校、中学校2校の計7校の学校があり、令和7年5月1日現在の児童生徒数は4,413名（小学校3,119名、中学校1,294名）となっている。

両中学校には、それぞれ12及び13の運動部活動があり、現状として単独によりチームを編成できないといった状況はない。

部活動の地域連携及び地域展開の取組として、令和5年度から総括アドバイザーの配置及び部活動指導員の配置を進めるとともに、令和6年度からは、両中学校陸上部（一中学校長距離を除く）の休日における練習を地域スポーツクラブへ展開するモデル事業を実施している。

令和8年度以降は、本モデル事業の成果や課題、地域の実態等を踏まえ、本町における部活動の地域展開に向けた方向性を明確にするとともに、生徒、教職員、保護者、地域の方々との合意形成を図りながら取組を進めていくことが必要である。

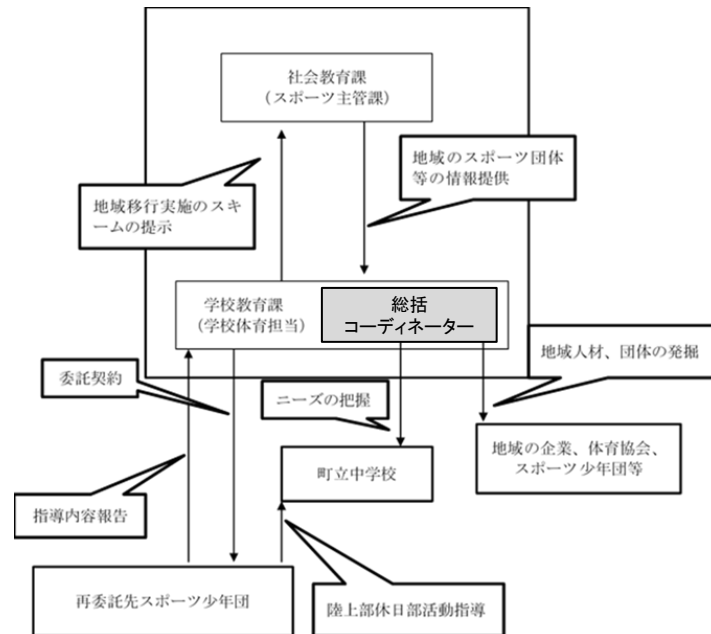
府中町立小中学校の児童生徒数の推移



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（学校教育課・社会教育課）

- ・学校教育課：学校部活動の地域連携・地域移行に係る学校との調整・連携等の窓口
- ・社会教育課：地域のスポーツ・文化に係る各種団体との窓口、環境整備
- ・コーディネーター：各中学校のニーズ等の把握、地域等の団体との連携 等

年間の事業スケジュール

時期	内容
4月	令和7年度 モデル事業実施
7月	総括コーディネーターにおける 町内中学校長へのヒアリング
8月	県教育委員会とのミーティング実施 (県市町共創ミーティング)
9月 ～ 1月	実施団体候補者との面談 町内住民等への周知 (広報紙への掲載)
3月	検討会の開催 府中町立中学校における学校部活 動の地域展開に向けた方針（案） 策定

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		1クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	1クラブ（陸上部活動）	
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数	0クラブ	
全体の指導者数	5人	全体の運営スタッフ数	1人(兼指導者)

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
府中空城 ジュニア 陸上クラブ	スポーツ 少年団	陸上	休日1回	8:00～ 11:00	第1学年 第2学年 第3学年	令和7年 4月12日 ～ 令和8年 2月8日	5人	1人 (内、兼務0人)	1,000 円/ 年額 (保険料)	中体連： 部活動

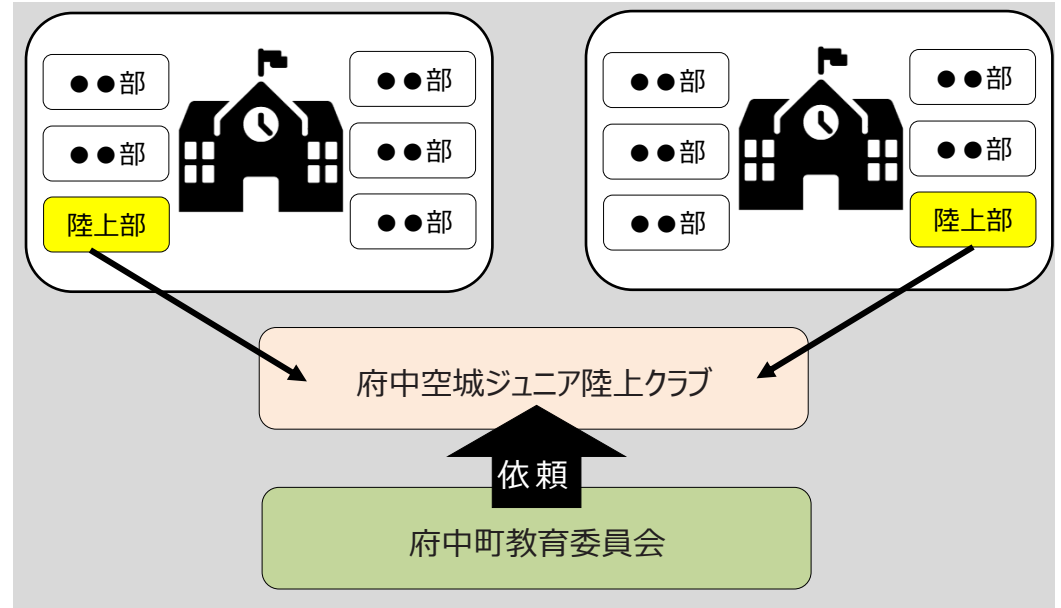
2.実証内容と成果

主な取組例

●府中空城ジュニア陸上クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上
運営団体名	府中空城ジュニア陸上クラブ
期間と日数	令和7年4月12日（土） ～ 令和8年2月8日（日） 月4回程度
指導者の主な属性	クラブ所属指導者
活動場所	町内中学校及び近隣スポーツ施設
主な移動手段	徒歩及び公共交通機関
1人あたりの参加会費等（年額）	1,000円(保険料含む)
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

- ・統括責任者 1名 役割：当該クラブの運営等に関わる責任者
- ・事務局 1名（統括責任者が兼ねる） 役割：事務的業務、練習 場所の確保、指導者との連携、学校、保護者との連絡連携等コーディネーター業務
- ・指導者 5名 役割：中学校部員に対し競技技術の指導、安全上の管理
- ・サポーター 保護者若干名 役割：練習時、ケガ等の対応等の全体サポート

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・教育委員会担当課、学校、地域の各種団体等との連携
- ・部活動の地域連携及び展開に向けた地域への周知活動
 - ※ 町広報誌やHPにおける周知
- ・活動に伴う保護者説明会の開催
- ・府中空城ジュニア陸上クラブとの連絡・調整
- ・地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップの作成
- ・保険手続き（加入案内、収納、加入手続き、事故通知窓口）
- ・お便りの作成、印刷、配布

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

- ・コミュニケーションアプリ(BAND)の活用
モデル事業1年目の振り返りで保護者より当日連絡の難しさが挙げられた。
反省を活かし、連絡アプリの導入を検討。有料アプリも検討したが、現段階ではモデル事業としての活動であるため、無料アプリを使用した。
2校の互いに知らない保護者が参加する点が気がかりであったが、トラブルなく活用いただけた。
出欠の確認だけでなく、練習場所・時間の確認、解散連絡等多岐にわたり活用することができた。

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

- ・『スポーツ団体向けガバナンスコード＜一般スポーツ団体向け＞に係るセルフチェックシート』、『町内医療機関リスト』を配布した。
- ・スポーツ少年団登録団体であり、指導者全員がJSPQ資格、県陸上競技協会審判資格の両方、いずれかの資格保持者であるとともに、運営スタッフが日本陸連エデュケーター資格を保有しており、安全管理等必要に応じて団体指導者に最新の情報共有を行った。
- ・参加者全員がスポーツ安全保険に加入(自己負担)するとともに、救急箱の常備、スタッフ数名の携帯電話の保持、夏場の氷の準備、保護者サポート（看護師含む）等、緊急時にも備えた。また、男性スタッフのみの練習日は保護者(母親)数名に練習時見守りサポートを依頼し、生徒・スタッフ相互の安心と安全に配慮した。

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

- モデル事業における安全管理対応方針の作成
- ＜報告、連携体制の構築＞
- ・スタッフ内の緊急時の役割分担、部活動顧問との連携構築を図り、事故・トラブル発生後は部活動顧問と連携し、学校の判断を仰いだ。
 - ・生徒の体調面等に懸念がある場合は、養護教諭と連携した。コーディネーターが部活動指導員を兼務しているため学校との連携が可能であった。
 - ・医療機関の把握（町内病院マップ配布、当番医の確認等）や緊急連絡先の把握（入部時、保護者からクラブへ提出、保険の加入）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- ・人材の発掘に対する取り組みとして、HP、SNS、求人媒体等を活用した公募による募集
- ・町独自の求人説明会を年4回実施した。部活動指導等に興味を有する方が複数名参加した。
- ・HPに部活動指導員を紹介するページを作成するとともに、町の広報誌に部活動指導員及び部活動の地域展開に向けた内容を掲載する等、町民に広く周知した。
- ・3月に部活動指導員の服務、規律に関する研修会を開催(オンライン)

取組の成果

- ・町独自の求人説明会に参加された方の2名が、年度途中から部活動指導員として生徒の指導を実施するなど、求人説明会により新たな部活指導員の人材を確保することができた。
- ・HPや町の広報誌を通じた情報発信により、見られた方から、部活動の地域展開に関する問い合わせが複数寄せられるなど、関心が高まりつつあることが確認できた。
- ・研修会の実施により、部活動改革の目的や部活動指導員の基本的な服務規律や安全管理等について理解を深めることができた。

今後の取組における課題

- ・地域クラブ活動の定義、地域クラブとしてどのような団体が参入できるのか等との要件、認定手続きなど、制度面の整理が進んでいない。
- ・地域クラブの数や内容のバランスについても検討が必要である。指導者の確保状況や施設利用の制約等を踏まえた現実的な計画が求められる。
- ・地域クラブの管理・運営団体の設定に向けた具体的な動きを検討してい浮く必要がある。
- ・地域や各種団体との連携や指導者の質の保障に向けた取組の推進等も検討していく必要がある。

課題への対応方針

- ・国の地域クラブ活動に関する認定制度を参考に、町の認定制度について検討、確立する。
- ・町における適切な地域クラブの数・内容、バランス等を検討する。また、必要に応じて地域への周知活動を進める。
- ・地域クラブ活動を管理する団体を検討し、関係課とも連携しつつ管理内容等について整理する。
- ・指導者の質の保障に向けて、引き続き研修会の内容や開催方法を検討する。
- ・部活動の地域連携や地域展開に向けた周知活動を継続する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・体育・スポーツ協会、競技団体、総合型地域スポーツクラブ、大学、企業等との連携を図った。
- ・今後の地域連携及び地域展開に向けて、総合型地域スポーツクラブとの協議を複数回実施した。
- ・公民館、中学校運営協議会への情報提供を行った。
- ・中学校学校長ヒアリングを実施した。

取組の成果

- ・今後の部活動の地域展開に向けて、総合型地域スポーツクラブと連携し、目指す方向性を確認することができた。
- ・公民館、中学校運営協議会、CS等へはスポーツ庁のガイドラインについて説明した。その際、府中町の方針については、現在検討中である旨を伝える等、現状の周知を図った。
- ・中学校学校長に現状と今後の展開の目標等を伝えることができた。また学校現場の思いを確認することができた。

今後の取組における課題

- ・部活動地域展開に向けた方針を作成し、ロードマップに沿って進めていくことが必要である。
- ・行政内における連携と役割分担を整理する必要がある。
- ・スポーツ推進委員をはじめ大学や企業等他機関との連携を充実させていく必要がある。
- ・方針作成後、教職員への説明会の開催等、部活動地域展開に向けた周知活動を進める必要がある。

課題への対応方針

- ・令和8年度以降の方針を令和7年度中に作成し、ロードマップに沿った取組を推進する。
- ・協議会を開催し、様々なステークホルダーの意見を踏まえ取組を推進する。
- ・行政内での役割等を明確にし、各部署で連携を取りながら展開を進めていく。
- ・学校を含む町内施設の現状を踏まえ、展開後の施設利用のルール等を検討する。
- ・教職員の兼職兼業を含め、教職員のクラブ活動への今後の関わり方について検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- ・総括コーディネーター、町教育委員会の担当者等が、近隣市町の取組の進捗状況や抱える課題を把握、交流するための訪問を計画した。（調整が難しく実施には至らなかった。）
- ・県に対し、県内他市町の状況を聴取し、整理して提供するよう求めた。
- ・様々な機会を通じて、総括コーディネーター、町教育委員会の担当者等が、近隣市町の状況を聴取した。

取組の成果

- ・部活動については、学習指導要領にも示される全国的な取組のため、町単独での取組に苦慮しており、近隣市町との連携を通して、多くの市町が同様の悩みを抱えている状況があることが分かった。
- ・近隣市町の方針として、運営主体の候補が固まっている市町、教育委員会が中心になって進める方針の市町、部活動として継続させる方針の市町等、まちまちであることが分かった。

今後の取組における課題

- ・各市町により学校数や児童生徒数、面積、立地条件等が異なるため、似通った状況の市町と連携できる体制づくりが必要である。
- ・県を中心とした協議会を開催する等、県内全域の市町が一定程度の足並みを揃えた取組となることが重要である。現状では、取組はまちまちな状況であり足並みを揃えるのは難しい。
- ・町としての方向性を確立するためには先進地域を訪問することが有益であるが、訪問に必要な予算確保が必要である。

課題への対応方針

- ・先進地域の具体的な取組を学ぶため、Zoomミーティングやオンデマンド配信を積極的に活用し、予算を抑えつつ効果的な情報収集を行う。また、必要に応じて視察のための予算確保を検討する。
- ・似通った状況の市町を選定し、継続的な意見交換や合同研修の実施など、具体的な連携ができるよう検討する。
- ・町における方針を作成し、作成後は協議会の開催を通して多様な意見を踏まえ、随時ブラッシュアップを図っていく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

- ・練習会の参加、競技場での練習会の実施
月1～2回、広島市陸上競技協会開催の専門練習会へ参加し、技術指導を受けるとともに、学校施設以外の場で練習を行う機会を設定した。
- ・悪天候時の室内練習の実施
悪天候時に学校以外の公共施設を使用し、練習できる体制を整えた。
- ・生徒によるワークショップの実施
「生徒の多様なニーズに応じた取組」として、生徒によるワークショップを実施する予定であったが、開催できなかった。

取組の成果

- ・練習会への参加により、専門の指導者からの指導を受け、技術面の向上、競技者意識の高まりが見られた。また、他校の生徒との交流も深まり人間関係の広がりが生まれた。
- ・競技場で練習することにより、練習の質や意識の向上、場所に慣れることによる大会当日の不安の軽減が図られた。
- ・交通機関の使用ルールやマナー、他の指導者等への挨拶、他者との関わり等、多方面の学びがあった。
- ・悪天候時に室内の場所を確保し、走練習以外のトレーニング、ケガ予防等の勉強会等を開催することができた。

今後の取組における課題

- ・費用負担について
学校以外の施設で練習する際は使用料、参加費、交通費が必要となることから、受益者負担の在り方について検討する必要がある。
- ・事前の連絡や周知の方法について
練習会に参加する際は、送迎の観点からも生徒や保護者への早めの周知が必要となる。
- ・配慮が必要な生徒への取組
健康上の理由や障害の有無等により、日常と違う環境となることで対応が難しい生徒もいることから、そのような生徒への対応が必要である。
- ・ワークショップの開催について
町としての方向性を明確にしたうえでの開催とする必要がある。

課題への対応方針

- ・練習会の参加・他施設での練習で発生する参加費用、交通費、または送迎という保護者負担について合意形成を図る必要がある。
- ・連絡アプリの活用やお便り発行等、平素からの保護者との信頼関係構築のための取組が必要である。
- ・自校の練習にしか参加できない生徒について、今回のモデル事業は学校部活動を基盤として行ったため理解を得られたが、今後の対応は検討が必要となる。
- ・町としての方向性を明確にした後は、生徒、保護者、教職員、地域の方々等、多くの方の意見を伺う機会を設定する必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

持続可能な運営に必要な受益者負担額の試算

・モデル事業を基に、休日の部活動を地域クラブへ展開した場合に必要な受益者負担を以下のとおり試算した。

①指導者への謝金

謝金計／所属生徒数＝1,614円/時間

生徒数 合計49人(令和7年度)

府中中25人、府中緑ヶ丘中24人(長距離5人、短距離19人)

②保険料等

一人当たり800円

③会場使用費 9,630円

一人当たり300円/月

④各種用具等

一人当たり3,000円/年

⑤その他(連絡ツール使用料等) 消耗品費 50,078円

雑費(送金手数料、消耗品費等)

<空城ジュニア陸上クラブの指導者への謝金の状況>

	指導回数	謝金
A	74回	119,436円
B	83回	133,962円
C	77回	124,278円
D	99回	159,786円
E	12回	19,368円
計	345回	556,830円

<講師謝金>

$556,830 \div 12 = 46,402$ 約50,000円・・・約1,000円/1人

<保険料>

個人負担 800円/年(+送金手数料) スポーツ安全保険

<会場使用料>

9,630円/年

<各種用具等購入>

50,078円/年

<その他(連絡ツール使用料等)>

送金手数料、消耗品費(救急道具等)、事務手数料

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- ・学校施設の効果的な活用や管理方法に関する「学校の施設・設備・備品等の利用ルールの設定」を進める計画であったが、関係者との調整や現状の整理等に時間を要し、ルールの設定には至らなかった。
- ・現在の学校開放事業における学校施設や備品の使用ルール、使用頻度等学校施設の活用に向けて状況を調査した。

取組の成果

- ・この度のモデル事業においては、利用ルールの設定にまでは至らなかったが、現在、町内学校施設の使用は学校行事や部活動等、学校の教育活動を優先していることを確認できた。
- ・部活動の学校施設等の使用に係る調整は各部活動顧問が行っていることが分かった。
- ・ホール等の学校備品等、現在も学校開放事業で利用可能としている物品と楽器の内大型楽器を除く管楽器等利用を認めていない物品など現状の整理が進んだ。

今後の取組における課題

- ・部活動の地域展開を進めるにあたっては、学校施設や設備の開放に係る担当窓口の設定やルールの作成を進める必要がある。
- ・学校部活動がある中で、地域展開を進めていくことは、現在の学校施設等の活用等の状況を踏まえると課題が大きい。
- ・地域展開後に利用させる学校施設について、急遽学校の教育活動で使用する必要がある場合の手続きを確立する必要がある。
- ・学校施設だけでなく、地域展開後の活動で楽器等高額な備品を生徒が使用する際の責任の所在や使用のルールを確立していく必要がある。

課題への対応方針

- ・学校施設利用、貸出の管理を行う窓口の設定とともに、貸出に関する明確なルールづくりが必要である。
- ・利用団体による施設や備品の損傷等が発生した場合の責任の所在等、使用方法等に関するルールづくりも必要となる。
- ・地域展開後の活動を学校の都合により中止する際の対応や手続きを含めたルールづくりが必要である。
- ・関係者が多岐にわたるため、学校の施設・設備・備品等の利用ルール作成にあたり丁寧な連携が必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

- ・地域クラブの体験加入/空城ジュニア陸上クラブによる通常練習日の開放
学校施設では練習が困難な種目があるため、空城ジュニア陸上クラブ練習日(水、金曜日夜)を両校陸上部の生徒に開放した。会費を取らず、希望者のみの自由参加として受け入れを行った。
- ・拠点校部活動の取組
中学校2校を1つの場所に集めて共に活動を行った。

取組の成果

- ・練習の参加率はA中学校はほぼ全員参加、B中学校は3分の2程度であった。練習グラウンドがA中学校校区内にあること、卒団生が中学陸上部に多いことが原因と考えられる。
- ・より専門的な指導が受けられるとともに、大会前に設備の整った環境で練習ができた。また、長距離の生徒は日中の猛暑を避け、夜の練習時間で活動でき、安全面を確保できた。
- ・学校部活動とは違う環境を通じて、生徒の向上心や競技意欲が高まり、満足度にも影響していた。
- ・拠点校活動により、指導者が1か所に集うことができたため、指導者の確保や安全、安心な活動に繋がった。

今後の取組における課題

- ・夜時間の練習もあるため、保護者の状況により参加したい生徒が参加できないこともあった。
- ・モデル事業のため、クラブとしては入会という形を取らず無料開放としたが、戸惑われる保護者もいた。今後、会費を徴収した場合、どれだけの生徒が参加するかは未知数である。
- ・本モデル事業は、休日対象であったこと、また、両校が徒歩圏内であったことが幸いし、生徒自らが移動し活動することができた。活動場所によっては、今後の課題となることが考えられる。
- ・学校部活動は、学校で普段の生徒の様子を把握している教員が行う教育活動の一環だが、地域クラブにおいては、教育的な指導の在り方や障害、特性等に対する対応の知識の無さ等により対応の困難さが生じる可能性がある。

課題への対応方針

- ・クラブ入会説明会の開催
次年度から練習に参加する際はクラブ員としての登録が必要となるため、クラブの入会についての案内を行い、理解を図る。
- ・学校との連携体制の構築
学校との情報の共有が重要となる。中学生は思春期に入り心も体も大きく成長する時期のため、担任のみならず養護教諭との連携は重要である。この度のモデル事業においては、コーディネーターを通してその都度対応した。トラブル、ケガ等はいつ起きるか分からない上、早急に対応しなくてはならないため、地域クラブと学校がいつでも連携できる体制を構築する必要がある。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本町においては、令和5年10月1日に、「府中町立中学校における学校部活動の地域連携及び地域クラブ活動への移行に向けた方針」を作成した。

作成当初は、令和5年度から令和7年度にかけて、以下のとおり取組を進める予定だったが、予定通りに進めることができなかった。特に地域の関係団体や保護者、有識者等を加えた協議会等の設置・開催は実施できなかった。

現在、令和8年度から令和13年度までの計画等を示した「府中町立中学校における学校部活動の地域展開に係る方針」を作成しており、今後は本方針に沿った取組を進めていく必要がある。

＜令和5年度＞

部活動指導員の配置、コーディネーターの配置、検討委員会の開催、地域への周知、地域の団体及び人材の掘り起こし、地域クラブ活動への移行に向けたモデル事業の実施に向けた取組、各種規定等の整備

＜令和6年度＞

・部活動指導員の継続配置、地域クラブ活動への移行に向けたモデル事業の実施（第Ⅰ期）、検討委員会の開催、地域への周知、地域の団体及び人材の掘り起こし、協議会の設置準備、各種規定等の整備

＜令和7年度＞

部活動指導員の増員検討、地域クラブ活動への移行に向けたモデル事業の実施（第Ⅱ期）、検討委員会の開催、モデル事業の成果と課題のまとめ、協議会の設置・開催、令和8年度以降の取組等についての検討

●成果の評価

- ・総括コーディネーターを中心に地域への周知活動は進めることができた。
- ・モデル事業を通じた成果や課題を整理することができた。
- ・令和8年度以降の学校部活動の地域展開に係る方針案を作成することができた。
- ・部活動指導員を増員することができた。

●今後に向けて

- ・令和11年度の部活動の地域展開の全面実施を見据え、協議会の設置様々な検討課題について検討していく必要がある。

具体的には、運営団体の検討・決定、地域クラブ活動に関する認定制度の策定、地域クラブ活動の掘り起こし・承認、指導者の質の保障・量の確保、関係団体・分野との連携、内容の充実、学校施設・設備の貸出のルールづくり等である。

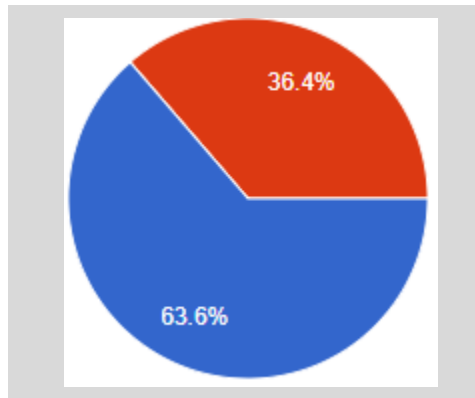
- ・地域展開時に生じることが予想される保護者負担の激変緩和、運営団体への補助金等、必要なランニングコストについて財源を確保する必要がある。

2.実証内容と成果②

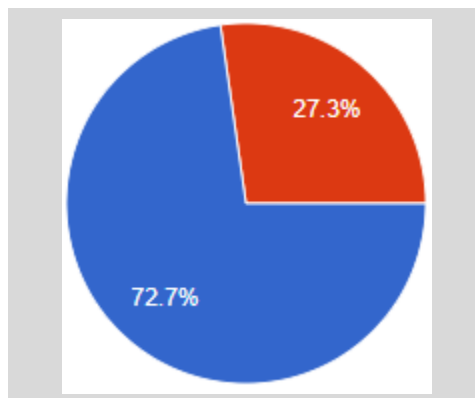
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

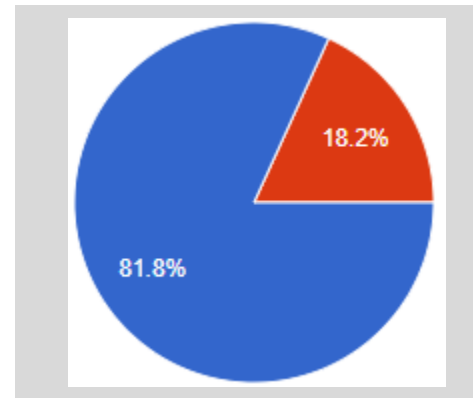
Q.あなたは、土日の練習を地域クラブで行ったことについて、どう思いましたか？



Q.あなたは、自分の学校以外の場所で練習を行うことについて、どう思いましたか？



Q.あなたは、他の中学校の生徒と共に練習することについて、どう思いましたか？



- とてもよいと思う。
- よいと思う。
- よくないと思う。
- とてもよくないと思う。

●参加者の声

Q.あなたは、土日の練習を地域クラブで行ったことについて、どう思いましたか？

- ・より専門的な指導者がいるため、質の良い指導を受けられたから。
- ・練習ができる環境が整っていたから。
- ・コーチ方にたくさんの指導をもらえることはとても嬉しいのですが、場所が遠い事があるので親に送迎してもらうのはもうしわけないです。

Q.あなたは、他の中学校の生徒と共に練習することについて、どう思いましたか？

- ・他の中学校の生徒と交流することで色々な人と技術を高め合ったり、練習し合ったりできるから。
- ・他の中学校の友達ができるし、いつもと違う仲間と練習できることが楽しいから。
- ・他の学校と練習することでその学校の練習の仕方やライバルの走り方を見たりすることができるので良いと思いました。

Q.あなたは、自分の学校以外の場所で練習を行うことについて、どう思いましたか？

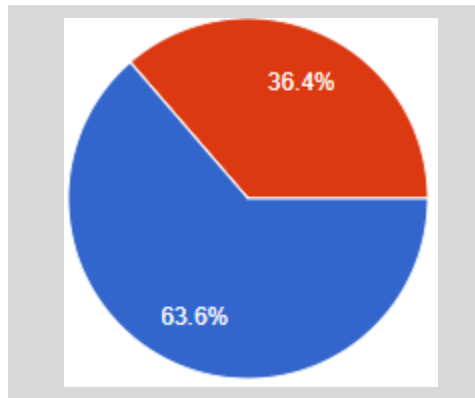
- ・学校の設備だけではできない練習もあるので、そういった練習ができて良かったから。
- ・場所が違うからという理由で、することが厳しいわけではないし、色々なところで練習して、大会等の本番に慣れることもできると思ったから。

2.実証内容と成果②

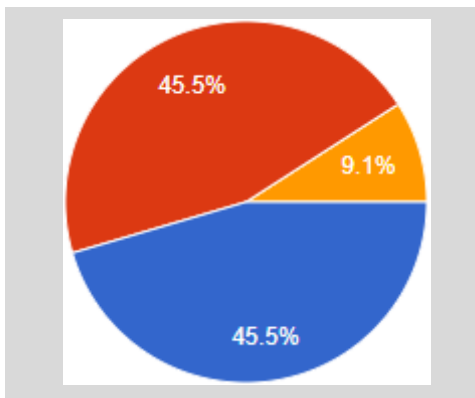
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

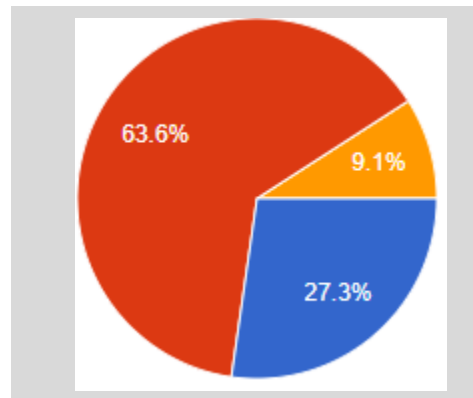
Q.あなたは、地域スポーツクラブの指導者の指導について、どう思いましたか？



Q.休日の練習に学校の先生がいないことについて、どう思いましたか？



Q.あなたは、平日の練習も地域クラブで実施されることとなった場合、どう思いますか？



- とてもよいと思う。
- よいと思う。
- よくないと思う。
- とてもよくないと思う。

●参加者の声

Q.あなたは、地域スポーツクラブの指導者の指導について、どう思いましたか

- ・陸上競技をよく知っている方々がいて、質の良い指導が受けられたから。
- ・みんなが気をつけた方がいいところをこのように意識したら言いよとアドバイスしてくれるからわかりやすい。
- ・一人一人に寄り添ってくれるし、専門的なことも教えてくれる楽しく学ぶことができるし、いい練習ができていると思う。

Q.休日の練習に学校の先生がいないことについて、どう思いましたか？

- ・学校の設備だけではできない練習もあるので、そういった練習ができて良かったから。
- ・学校部活動として、練習に参加しているのに、顧問の先生がいないのは何か違う気がしたし、生徒のことをよく知っているのも先生だからいなかったら緊急時の対応が難しいと感じたから

Q.あなたは、平日の練習も地域クラブで実施されることとなった場合、どう思いますか？

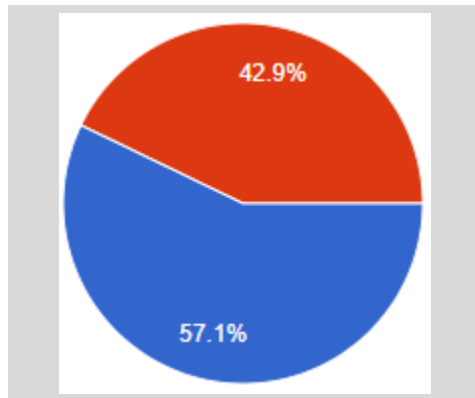
- ・専門的な指導者がいることでより技術力の高い集団ができあがると思うから。しかし学校の先生はいた方が交流が増え学校生活のなかでの部活動の情報交換がしやすいと思う。
- ・コーチの方指導があるのはとても嬉しいことですが、平日は親の送迎が難しいので学校でやってもらいたいです。

2.実証内容と成果②

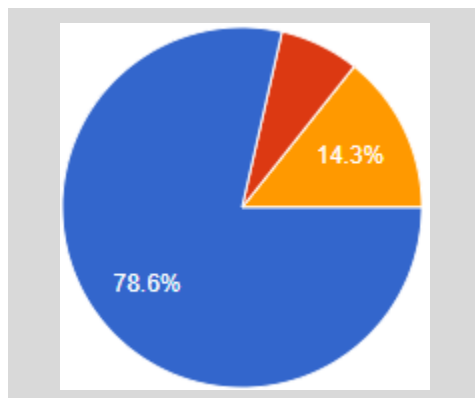
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

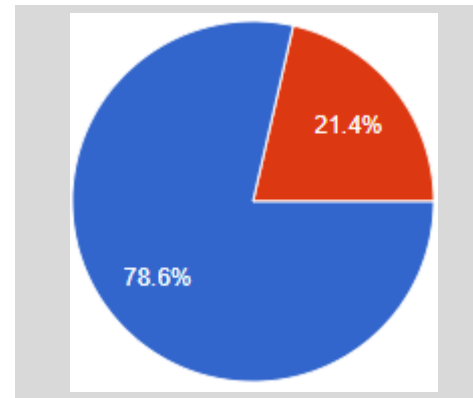
Q.お子様が、土日の練習を地域クラブで行ったことについて、どう思われましたか？



Q.お子様が、自分の学校以外の場所で練習を行うことについて、どう思われましたか？



Q.お子様が、他の中学校の生徒とともに練習することについて、どう思われましたか？



- とてもよいと思う。
- よいと思う。
- よくないと思う。
- とてもよくないと思う。

●保護者の声

Q.お子様が、土日の練習を地域クラブで行ったことについて、どう思われましたか？

- ・場所や時間等の物質面でしっかり練習ができる。小学生の頃からクラブに入っているの、本人も保護者も戸惑うことは特になかった。
- ・コーチをはじめ沢山の地域の方々に支えられ子供が成長していること。

Q.お子様が、他の中学校の生徒とともに練習することについて、どう思われましたか？

- ・交友関係が広がった。
- ・沢山の人と関わる事がプラスになると思うから。
- ・初対面の人と接する事に慣れてきた。
- ・コミュニケーションが取れるようになったと思う。

Q.お子様が、自分の学校以外の場所で練習を行うことについて、どう思われましたか？

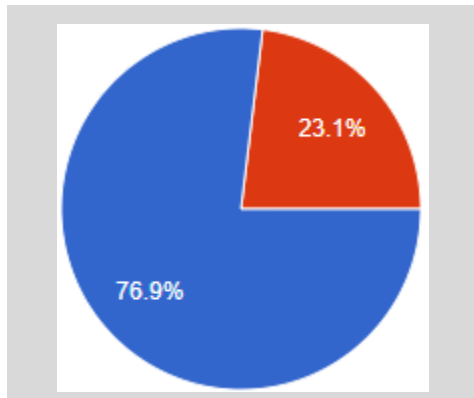
- ・違う環境で練習することは色々な面で有意義だと思う。
- ・基本的には問題ない。ただ、練習場所への行き帰り、団体で行動する計画をきちんと示してほしい。管理が中途半端なのに携帯電話の持参を認めないのは矛盾していると感じる。連絡用に認めてほしい。行き帰りも、全員で交通機関で移動するようにしてほしい。部活動は学校集合、学校解散が基本だと思う。

2.実証内容と成果②

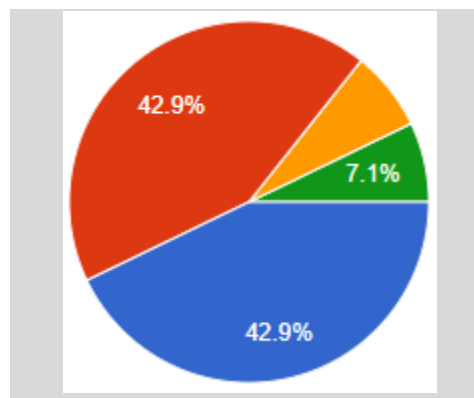
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

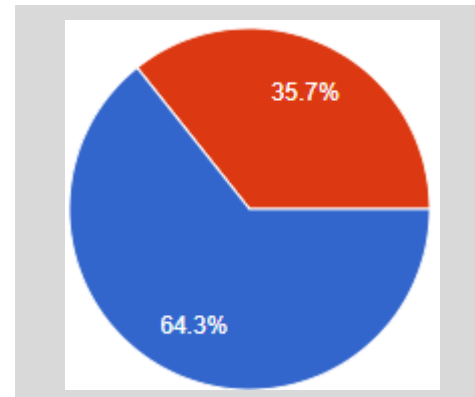
Q.地域クラブの指導者の指導について、どう思われましたか？



Q.休日の練習に学校の先生がいないことについて、どう思われましたか？



Q.今後、部活動が地域クラブで実施されることとなった場合（平日及び休日）、どう思われますか？



- とてもよいと思う。
- よいと思う。
- よくないと思う。
- とてもよくないと思う。

●保護者の声

Q.地域クラブの指導者の指導について、どう思われましたか？

- ・指導者としてのキャリアがあり、プロの目線でしっかり見られている。陸上のことだけでなく、社会のルールも併せて指導してくれる。
- ・熱心なご指導。厳しさと優しさ、温かみが子供の成長を促していると思うから。

Q.休日の練習に学校の先生がいないことについて、どう思われましたか？

- ・クラブから保護者への連絡ツールも確立されていたので問題ないと思った。
- ・コーチを信頼しているので問題はないです。
- ・責任の所在がわからない。

Q.今後、部活動が地域クラブで実施されることとなった場合（平日及び休日）、どう思われますか？

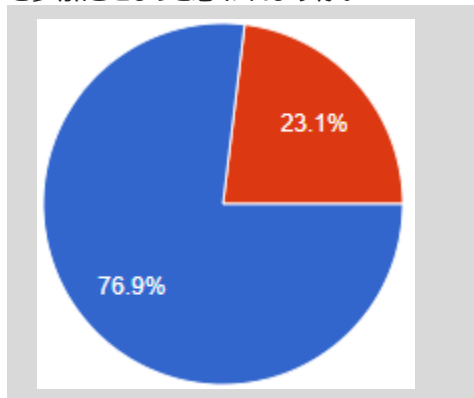
- ・各競技で専門的な指導を受けることを期待できるから。
- ・地域クラブで行う方が良いという判断なら仕方ない気もします。部活動がなくなるのは寂しいです。
- ・先生たちの負担も減り、生徒たちもより専門的な指導が受けられる。
- ・管理者、責任者が誰なのかははっきりしてほしい。

2.実証内容と成果②

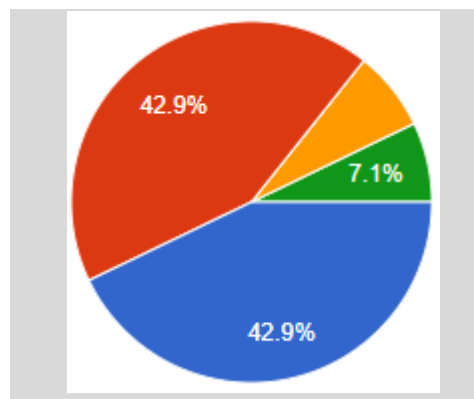
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

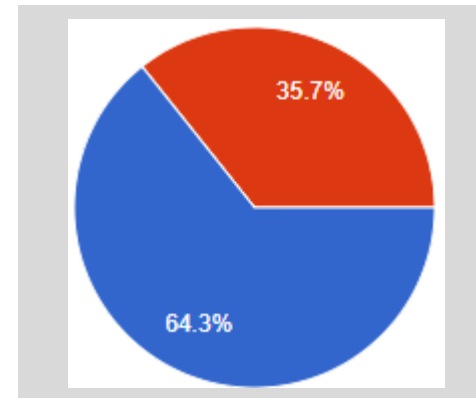
Q.今後、部活動が地域クラブ活動へ展開された場合（平日及び休日）、お子様を参加させようと思われませんか？



Q.お子様を休日（月4日程度）の地域クラブへ参加させる場合、受益者負担はどの程度が適当だと思われませんか？



Q.お子様を平日（月20日程度）の地域クラブへ参加させる場合、受益者負担はどの程度が適当だと思われませんか？



- とてもよいと思う。
- よいと思う。
- よくないと思う。
- とてもよくないと思う。

- 無償
- 1,000円未満
- 2,000円未満
- 3,000円未満
- 4,000円未満
- 5,000円未満
- 5,000円以上

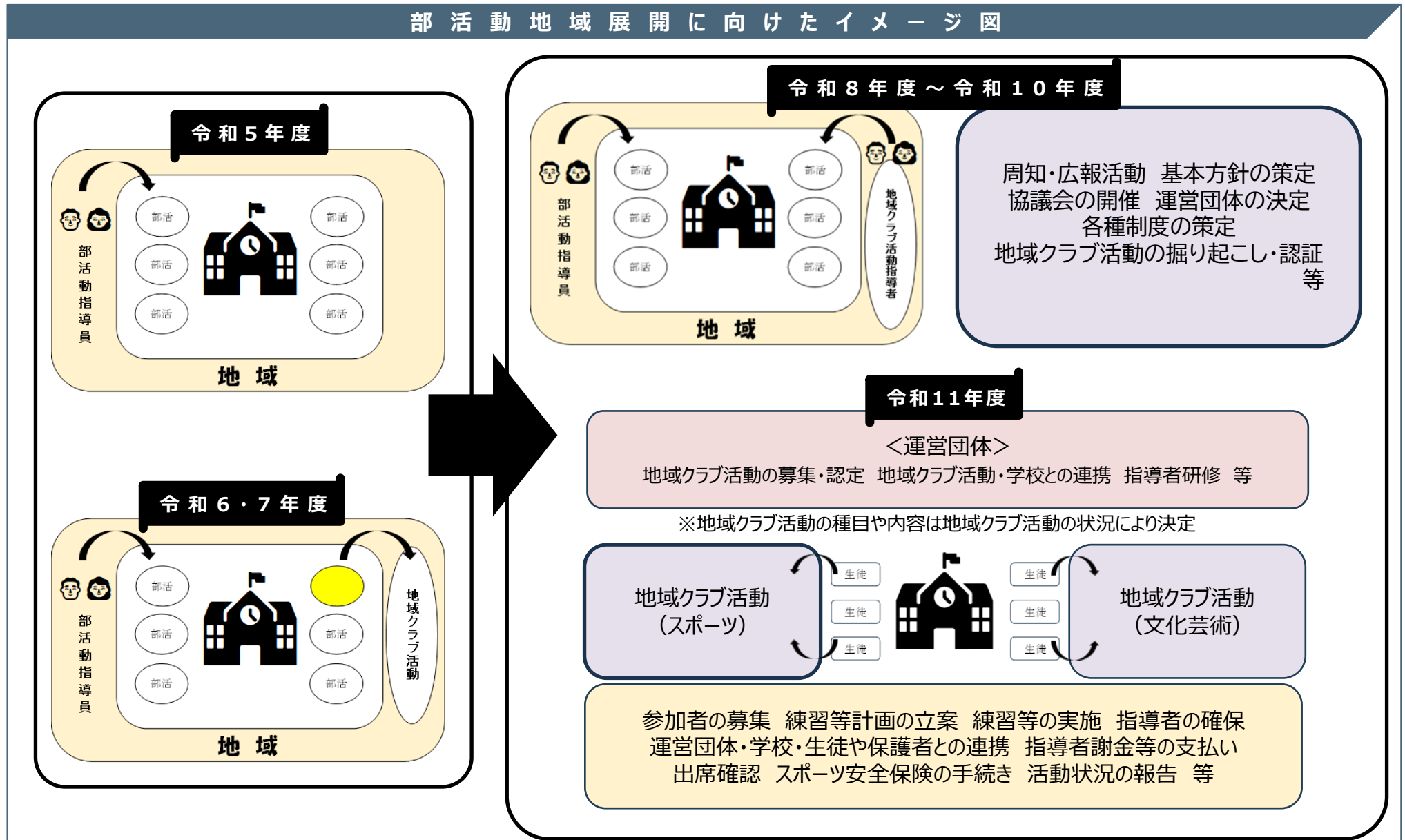
●保護者の声

Q.地域クラブに求めることを教えてください。

- ・専門性の高い良き指導者がおり、安全に過ごせるかどうか。
- ・指導者の人格と練習の環境。
- ・日程時間や練習メニューを保護者にも共有してほしい。子どもたちだけだと聞き逃しもあるので。
- ・学校との連携をしっかりとほしいです。

2.実証内容と成果

部活動地域展開に向けたイメージ図



3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

